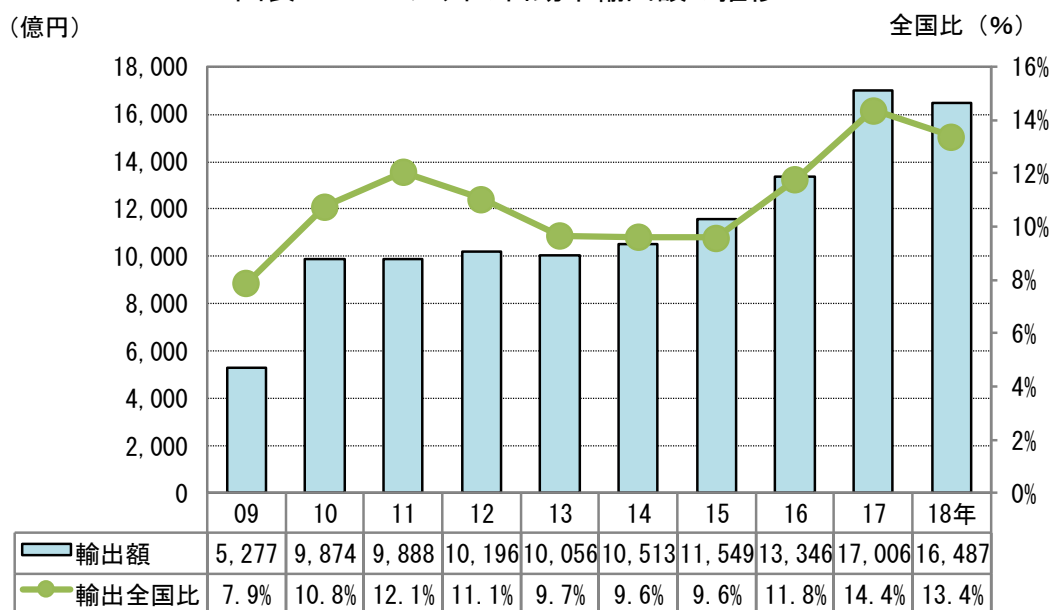


第3章 九州の産業別貿易動向

1. 自動車・自動車の部分品

- 2018年の九州の自動車輸出額は、1兆6,487億円（前年比3.1%減）
 - 前年より減少し、5年ぶりの減少。
 - 輸出先は、中国が最も多く、次いで米国、アラブ首長国連邦、韓国
- 2018年の九州の自動車生産台数は、143万台（前年比2.6%増）
 - 日本全体の生産台数（973万台）の14.7%

図表 3-1-1 九州の自動車輸出額の推移



図表 3-1-2 自動車の主な輸出相手国・地域の推移（2013年・2018年）

（単位：億円、%）

2013年	金額		構成比	2018年	金額		構成比
	金額	構成比			金額	構成比	
全国				全国			
米国	37,443	36.0%		米国	45,241	36.8%	
オーストラリア	7,484	7.2%		オーストラリア	8,505	6.9%	
ロシア	5,864	5.6%		中国	6,377	5.2%	
中国	5,219	5.0%		アラブ首長国連邦	5,440	4.4%	
アラブ首長国連邦	4,117	4.0%		カナダ	3,966	3.2%	
その他	43,998	42.3%		その他	53,542	43.5%	
計	104,125	100.0%		計	123,072	100.0%	
九州				九州			
米国	3,772	37.5%		中国	4,906	29.8%	
中国	2,654	26.4%		米国	4,508	27.3%	
アラブ首長国連邦	773	7.7%		アラブ首長国連邦	1,962	11.9%	
台湾	338	3.4%		韓国	619	3.8%	
メキシコ	314	3.1%		台湾	589	3.6%	
その他	2,206	21.9%		その他	3,903	23.7%	
計	10,056	100.0%		計	16,487	100.0%	

図表 3-1-1~2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

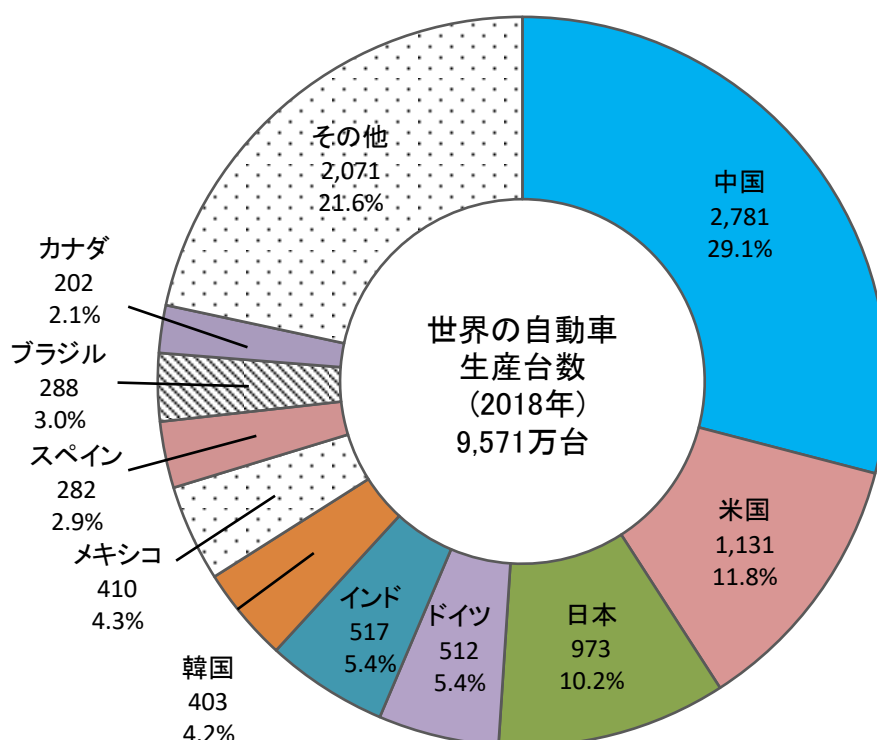
図表 3-1-3 世界の自動車生産台数

(単位：万台、%)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2018年		
							構成比	伸び率	13年比
ヨーロッパ	1,992	2,043	2,117	2,149	2,163	2,133	22.3%	▲1.4%	7.1%
米州	2,113	2,122	2,096	2,082	2,071	2,080	21.7%	0.4%	▲1.6%
アジア大洋州	4,582	4,740	4,788	5,185	5,340	5,245	54.8%	▲1.8%	14.5%
日本	963	977	928	920	969	973	10.2%	0.4%	1.0%
九州	134	130	135	135	139	143	1.5%	2.6%	6.4%
中国	2,212	2,373	2,457	2,812	2,902	2,781	29.1%	▲4.2%	25.7%
韓国	452	452	456	423	411	403	4.2%	▲2.1%	▲10.9%
インド	390	384	416	452	479	517	5.4%	8.0%	32.7%
タイ	246	188	191	194	199	217	2.3%	9.0%	▲11.8%
その他	319	365	341	383	379	354	3.7%	▲6.7%	10.9%
アフリカ	64	72	84	90	100	112	1.2%	12.0%	76.5%
世界計	8,751	8,978	9,084	9,506	9,675	9,571	100.0%	▲1.1%	9.4%

図表 3-1-4 世界の自動車生産台数の国・地域別構成比

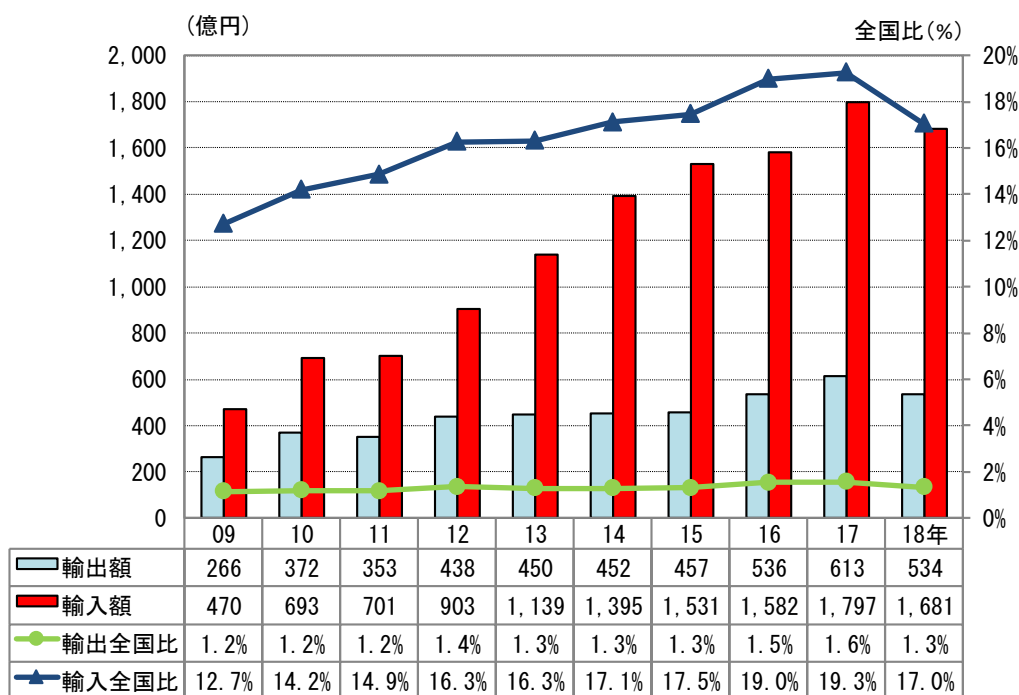
(単位：万台、%)



図表 3-1-3~4 出所：国際自動車工業連合会HP、九州経済産業局資料より九州経済産業局作成。

- 2018年の九州の自動車の部分品の貿易額は、輸出が534億円（前年比12.9%減）
→ 前年より減少し、7年ぶりの減少。一方、輸入も1,681億円（前年比6.5%減）で前年より減少し、直近10年間で、初めての前年比減。
- 九州の輸出相手国・地域では、米国が最も多く、次いでロシア、カナダ
- 九州の輸入相手国・地域では、中国が最も多く、次いでメキシコ、韓国

図表 3-1-5 九州の自動車の部分品貿易額の推移



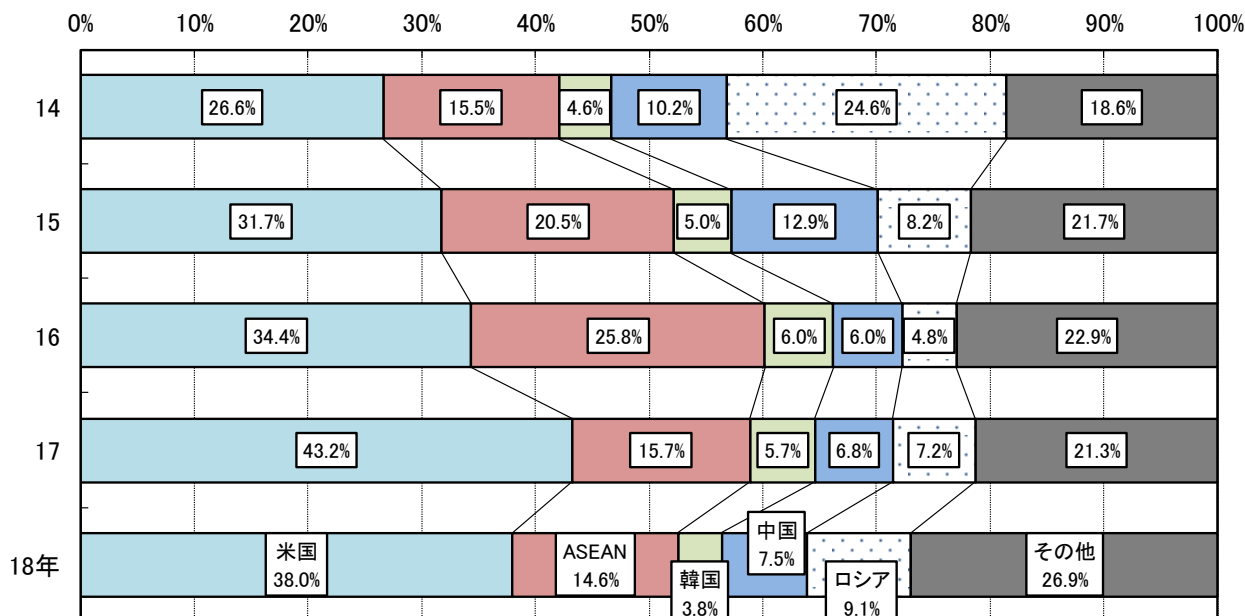
図表 3-1-6 自動車の部分品の主な輸出入相手国・地域（2018年）

（単位：億円、%）

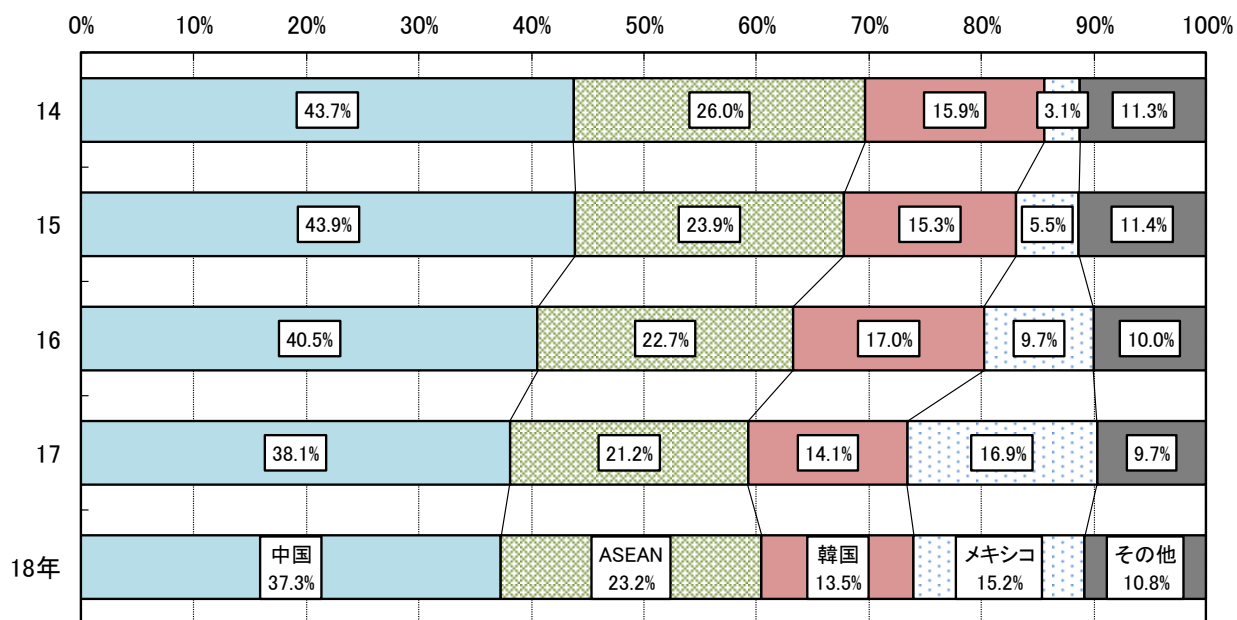
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	9,295	23.3%	中国	3,526	35.8%
中国	8,689	21.8%	タイ	1,015	10.3%
タイ	3,034	7.6%	ドイツ	811	8.2%
インドネシア	2,190	5.5%	韓国	786	8.0%
メキシコ	2,072	5.2%	米国	700	7.1%
その他	14,630	36.7%	その他	3,024	30.7%
計	39,909	100.0%	計	9,861	100.0%
九州			九州		
米国	203	38.0%	中国	627	37.3%
ロシア	49	9.1%	メキシコ	255	15.2%
カナダ	46	8.6%	韓国	227	13.5%
マレーシア	42	7.9%	タイ	193	11.5%
中国	40	7.5%	インドネシア	83	4.9%
その他	154	28.9%	その他	297	17.7%
計	534	100.0%	計	1,681	100.0%

図表 3-1-5~6 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-1-7 九州の自動車の部分品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-1-8 九州の自動車の部分品の輸入相手国・地域の推移

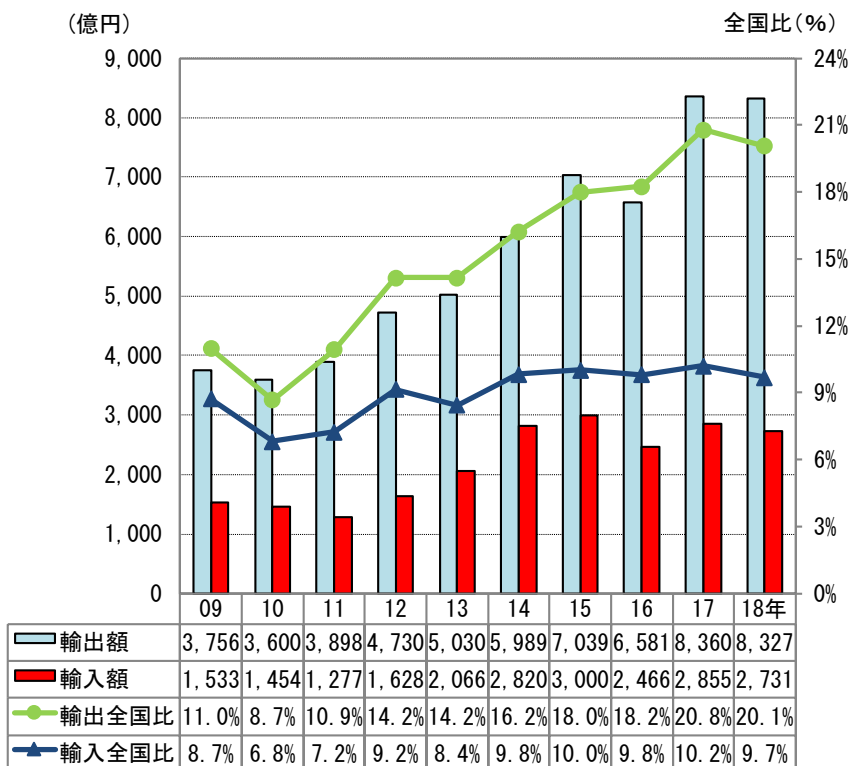


図表 3-1-7~8 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

2. 半導体等電子部品

- 2018年の九州の半導体等電子部品貿易額は、輸出が8,327億円（前年比0.4%減）で前年より減少。一方、輸入も2,731億円（前年比4.3%減）で前年より減少。
- 九州の輸出相手国・地域では、香港向けが最も多く、次いで韓国、ベトナム
- 九州の輸入相手国・地域では、台湾からが最も多く、次いで中国、韓国

図表 3-2-1 九州の半導体等電子部品貿易額の推移



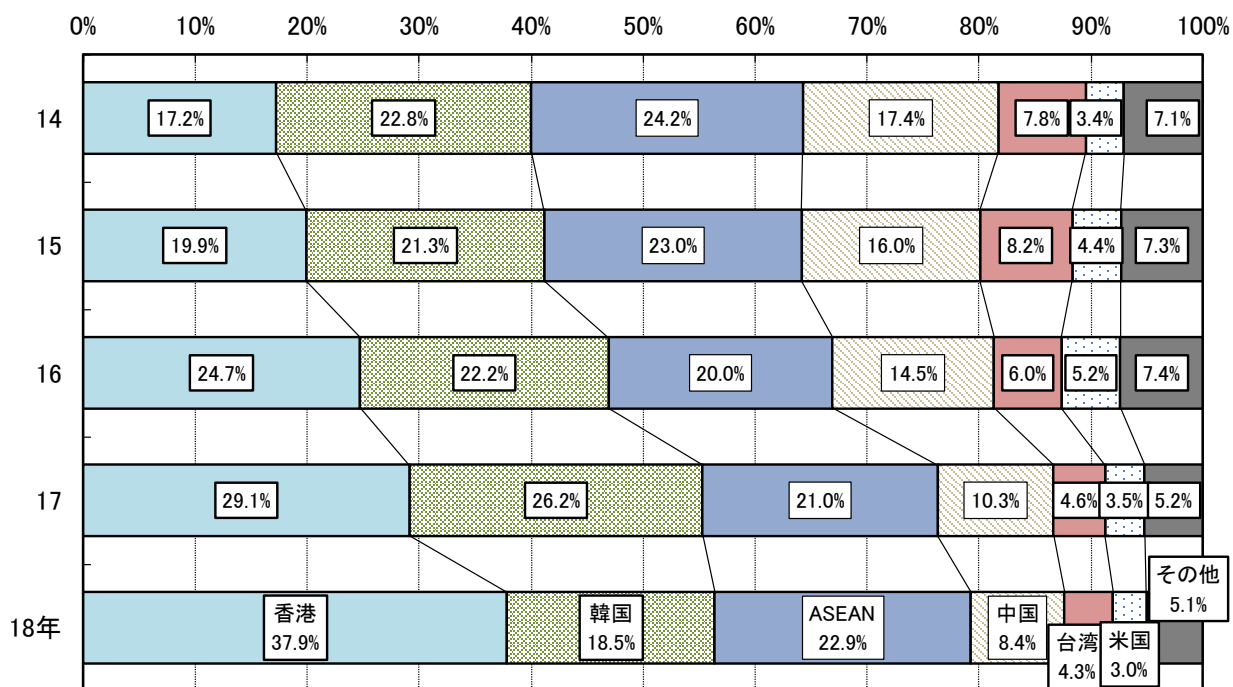
図表 3-2-2 半導体等電子部品の主な輸出入相手国・地域（2018年）

（単位：億円、%）

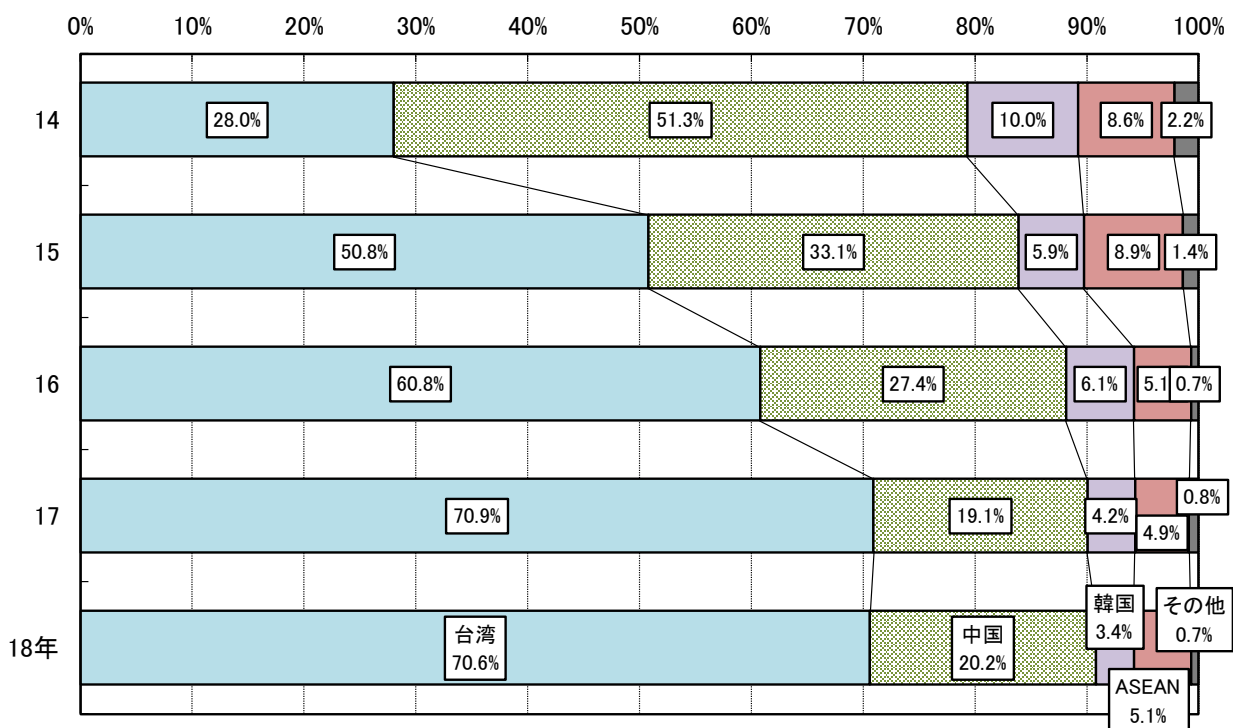
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	10,971	26.4%	台湾	11,708	41.6%
台湾	7,117	17.1%	中国	5,029	17.9%
香港	6,660	16.0%	米国	2,996	10.6%
韓国	2,565	6.2%	韓国	2,468	8.8%
タイ	2,365	5.7%	マレーシア	1,559	5.5%
その他	11,824	28.5%	その他	4,405	15.6%
計	41,502	100.0%	計	28,165	100.0%
九州			九州		
香港	3,152	37.9%	台湾	1,928	70.6%
韓国	1,543	18.5%	中国	551	20.2%
ベトナム	1,119	13.4%	韓国	93	3.4%
中国	696	8.4%	マレーシア	52	1.9%
タイ	417	5.0%	フィリピン	37	1.4%
その他	1,400	16.8%	その他	70	2.6%
計	8,327	100.0%	計	2,731	100.0%

図表 3-2-1~2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-2-3 九州の半導体等電子部品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-2-4 九州の半導体等電子部品の輸入相手国・地域の推移

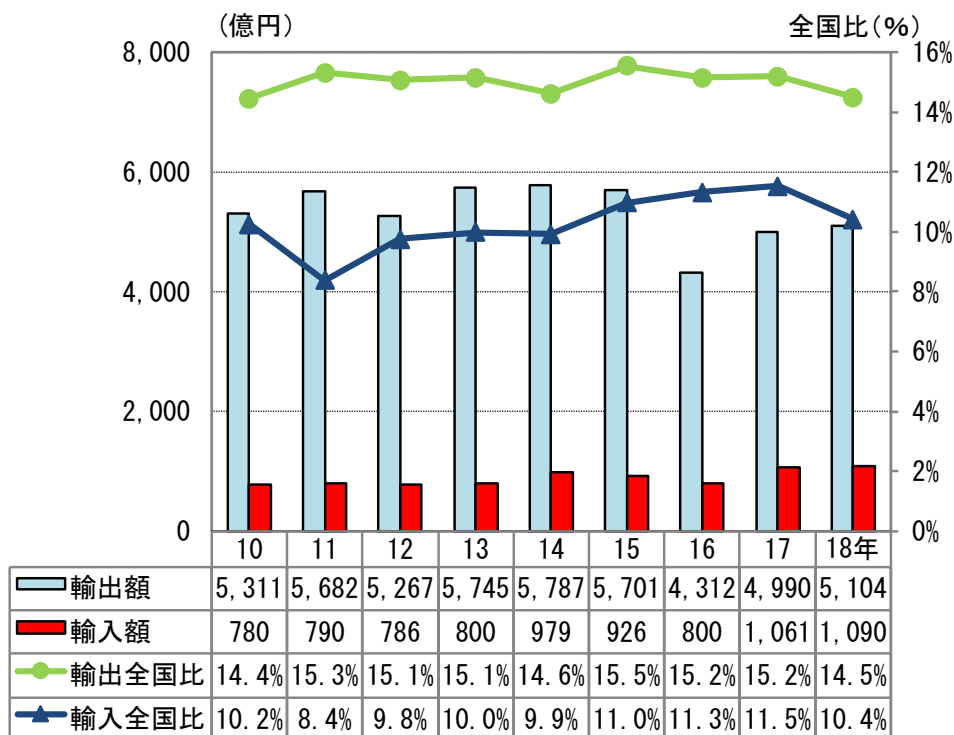


図表 3-2-3~4 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

3. 鉄鋼

- 2018年の九州の鉄鋼貿易額は、輸出額5,104億円（前年比2.3%増）、輸入額1,090億円（前年比2.7%増） → いずれも2年連続の増加
- 輸出先はタイが最も多く、次いで中国、韓国
輸入元は韓国が最も多く、次いで中国、カザフスタン
- 2018年の九州の粗鋼生産量は15百万トン
→ 日本全体の生産量（104百万トン）の14.5%

図表 3-3-1 九州の鉄鋼貿易額の推移



図表 3-3-2 鉄鋼の主な輸出入相手国・地域（2018年）

（単位：億円、%）

輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	5,616	16.3%	韓国	3,383	33.2%
タイ	5,047	14.7%	中国	1,939	19.0%
韓国	4,551	13.2%	台湾	946	9.3%
台湾	2,338	6.8%	カザフスタン	702	6.9%
米国	2,039	5.9%	南アフリカ共和国	466	4.6%
その他	14,821	43.1%	その他	2,752	27.0%
計	34,412	100.0%	計	10,188	100.0%
九州			九州		
タイ	955	18.7%	韓国	396	36.3%
中国	679	13.3%	中国	136	12.4%
韓国	621	12.2%	カザフスタン	119	11.0%
メキシコ	298	5.8%	南アフリカ共和国	119	10.9%
インド	289	5.7%	ブラジル	81	7.4%
その他	2,261	44.3%	その他	240	22.0%
計	5,104	100.0%	計	1,090	100.0%

図表 3-3-1~2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-3-3 主要国の粗鋼生産量

(単位：百万トン、%)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	構成比
中国	822	804	808	831	928	51.3%
EU	169	166	162	168	168	9.3%
日本	111	105	105	105	104	5.8%
うち九州	16	16	16	15	15	0.8%
インド	87	89	95	101	106	5.9%
米国	88	79	78	82	87	4.8%
ロシア	71	91	71	71	72	4.0%
韓国	72	70	69	71	72	4.0%
トルコ	34	32	33	38	37	2.1%
ブラジル	34	33	31	34	35	1.9%
その他	181	152	176	228	199	11.0%
世界計	1,669	1,620	1,628	1,730	1,809	100.0%

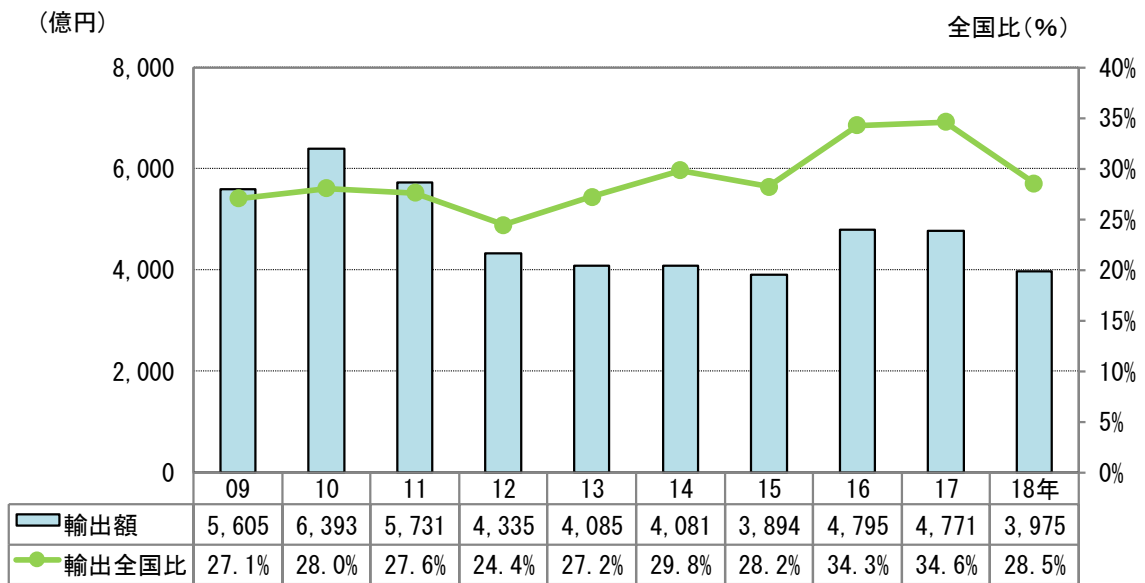
備考：EUはクロアチアを除く 27 カ国の計

出所：（一社）日本鉄鋼連盟資料より九州経済産業局作成。

4. 船舶類

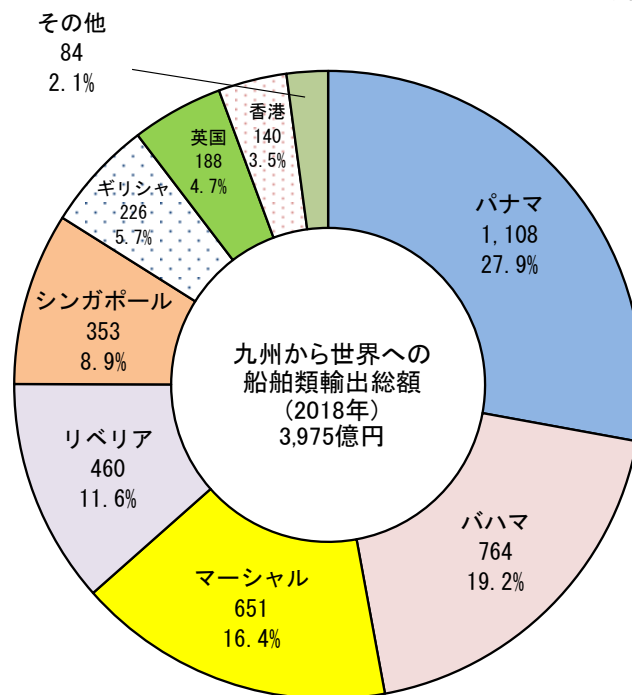
- 2018年の九州の船舶類輸出額は3,975億円（前年比16.7%減）で前年より減少。
輸出先はパナマが最も多く、次いでバハマ、マーシャル
- 九州の船舶類輸出額は全国の（13,927億円）の28.5%
→ 船舶類は、九州の主力輸出品目の一つ

図表 3-4-1 九州の船舶類の輸出額推移



図表 3-4-2 九州の船舶類の輸出相手国・地域

(単位：億円、%)

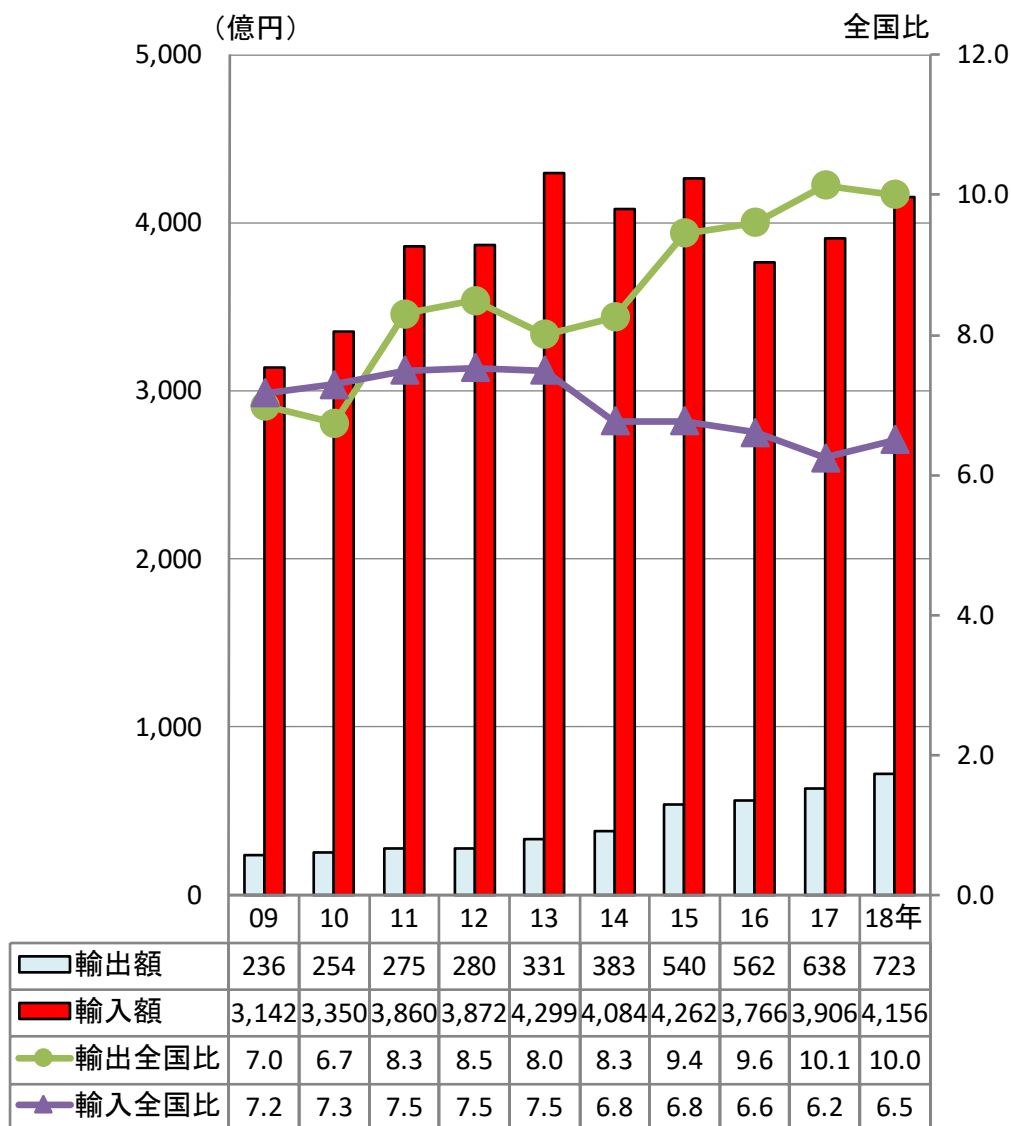


図表 3-4-1~2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

5. 食料品

- 2018年の九州の食料品貿易額は、輸出額723億円（前年比13.4%増）、輸入額4,156億円（前年比6.4%増）
→ 輸出は2009年より毎年の増加、輸入は2年連続の増加。貿易収支は大幅な輸入超過が続く。
- 輸出はアジアや米国向けが多く、品目としては魚介類及び同調製品が5割近くを占めた。
輸入は北米やアジアのほか、中南米や大洋州など、より多様な国々との取引となっており、品目としては穀物類及び同調製品と魚介類及び同調製品が多い。

図表 3-5-1 九州の食料品貿易額の推移

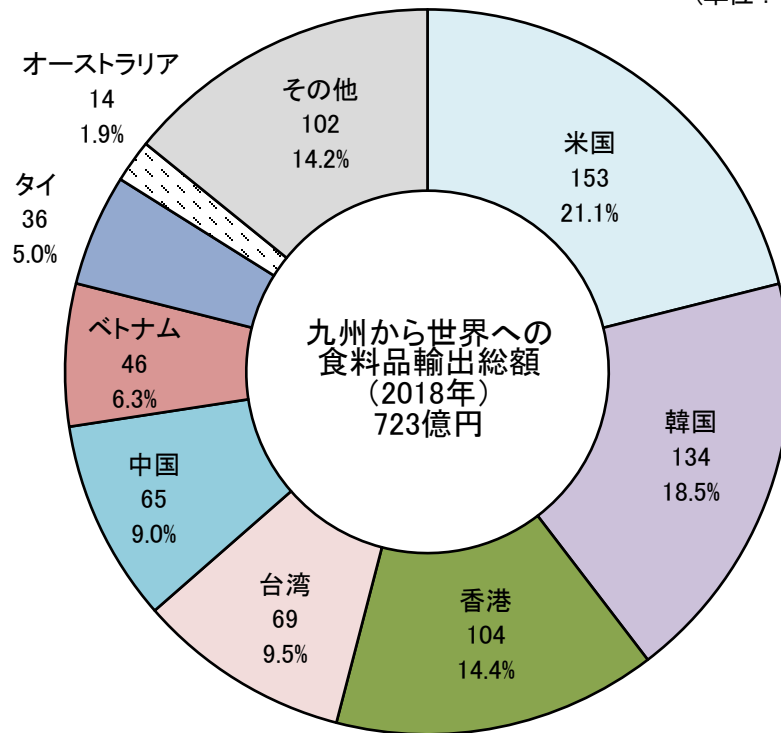


備考：「食料品」とは、「食料品及び動物（大分類）」、「飲料（中分類）」、「動植物性油脂（大分類）」を足したもののから、「生きた動物（中分類）」、「飼料（中分類）」、「加工油脂及びろう（中分類）」を差し引いたものとする。

出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

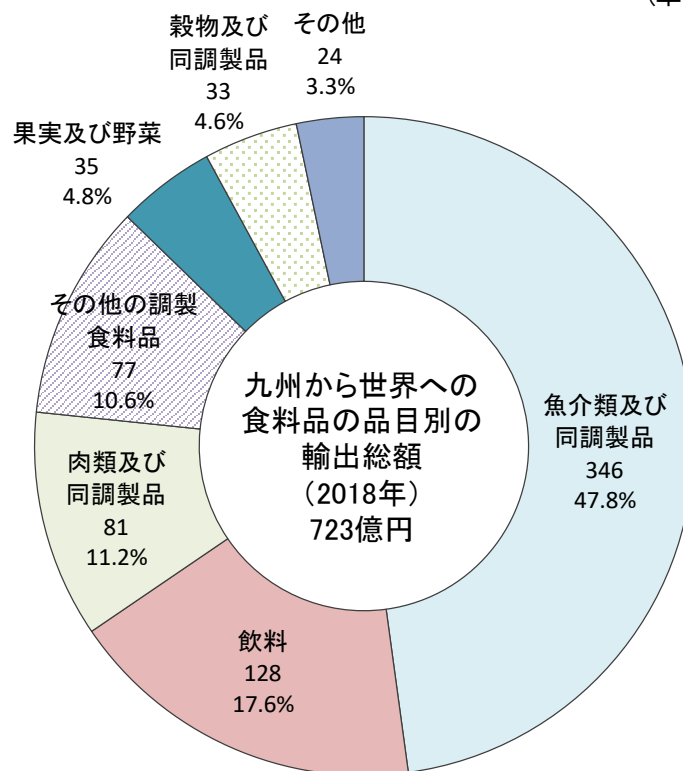
図表 3-5-2 九州の食料品の国・地域別輸出額

(単位：億円、%)



図表 3-5-3 九州の食料品の品目別輸出額

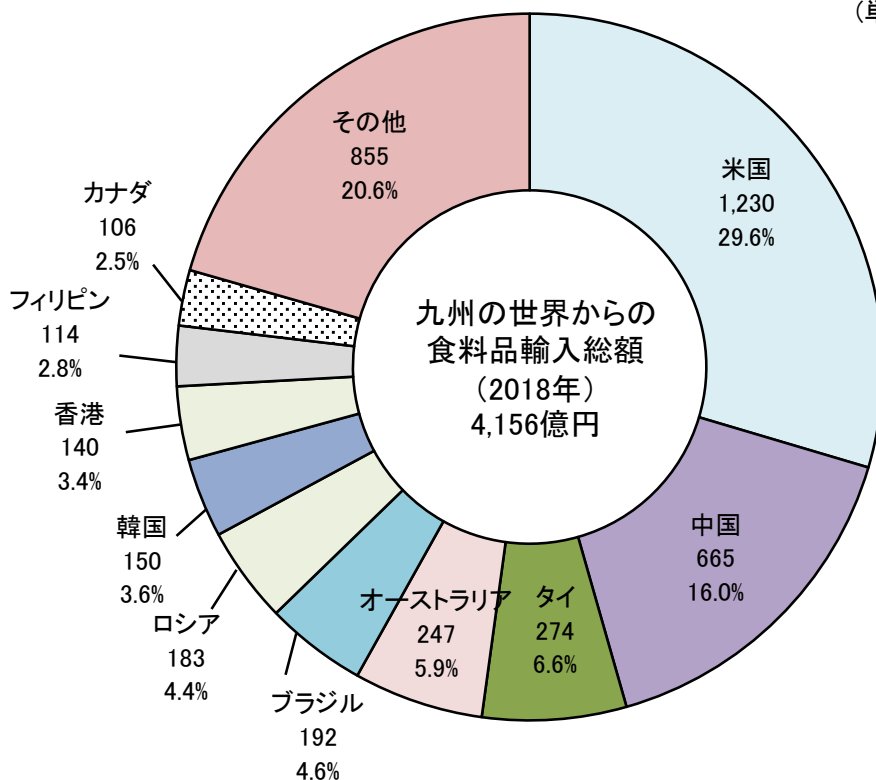
(単位：億円、%)



図表 3-5-2~3 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

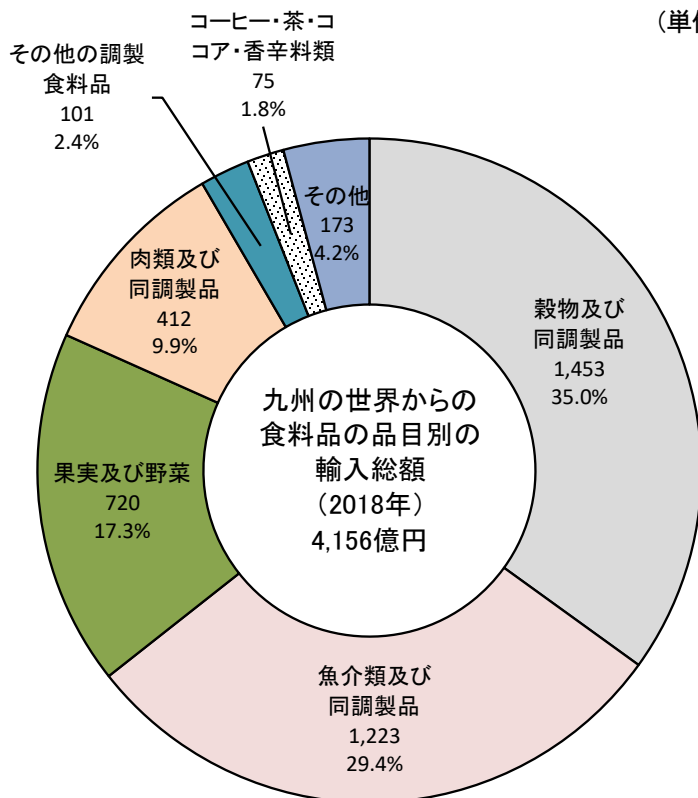
図表 3-5-4 九州の食料品の国・地域別輸入額

(単位：億円、%)



図表 3-5-5 九州の食料品の品目別輸入額

(単位：億円、%)



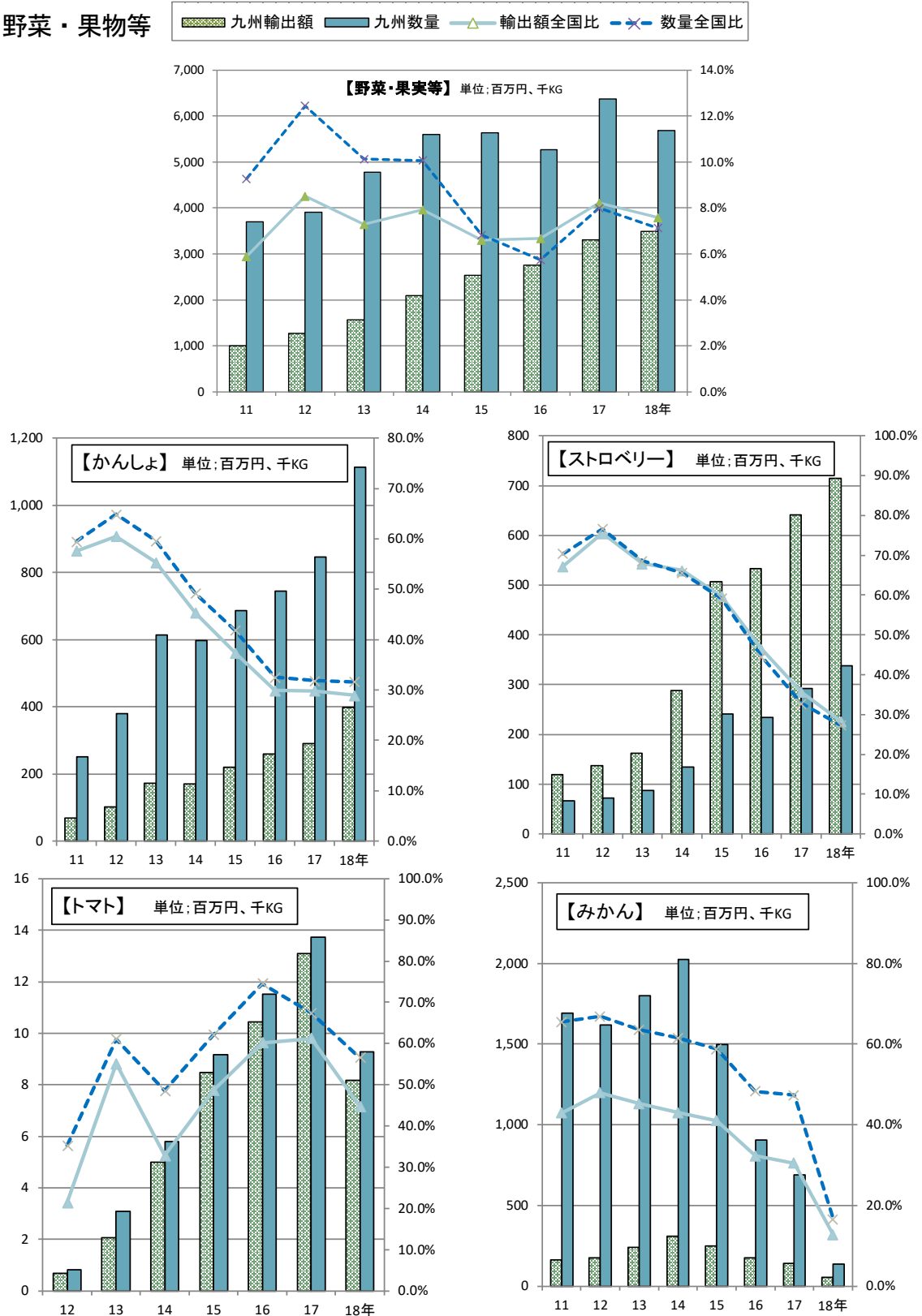
図表 3-5-4~5 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

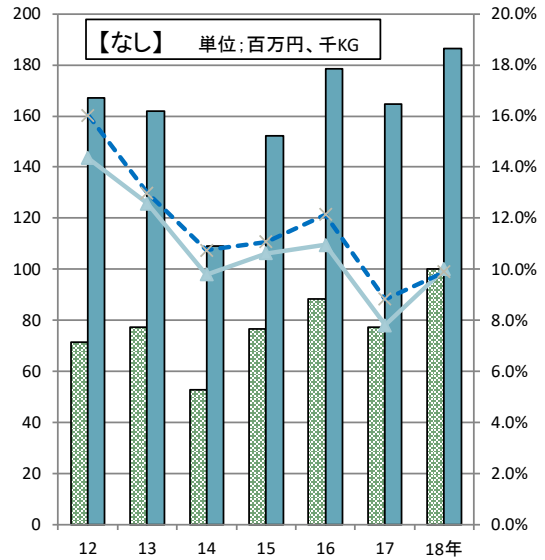
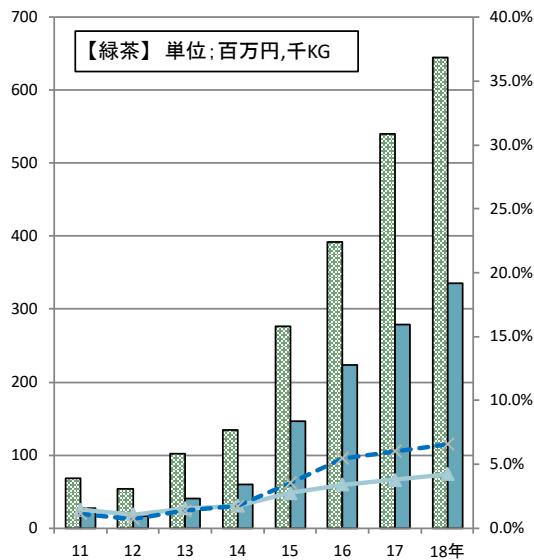
6. 農林水産物及び加工品

●近年、各種農林水産物の輸出額及び輸出数量が伸びており、さまざまな国に輸出されている。主要な農林水産物について、輸出動向は以下のとおり。

図表 3-6-1 九州の主要な農林水産物の輸出額・数量推移

① 野菜・果物等





参考

野菜等の輸出に際し、最も重要な貯蔵条件は、品目によりそれぞれ異なっており、水分の多い野菜は貯蔵日数が短く、根菜類は長い傾向にある。

品目	貯蔵最適温度(°C)	貯蔵限界(目安)
サツマイモ	13~15	4~7月
イチゴ	0	7~10日
トマト(完熟)	8~10	1~3週間
トマト(緑熟)	10~13	2~5週間
メロン(ネットメロン)	2~5	2~3週間
メロン(その他)	7~10	3~4週間

出所：(独)農研機構・野菜茶業研究所「野菜の最適貯蔵条件」を参考に作成。

海外への生鮮食料品等の流通においては、生産段階から消費段階まで低温に保ちながら流通されるしくみ「コールドチェーン」の整備が進められている。

○野菜・果実等は輸出額が毎年増加傾向。

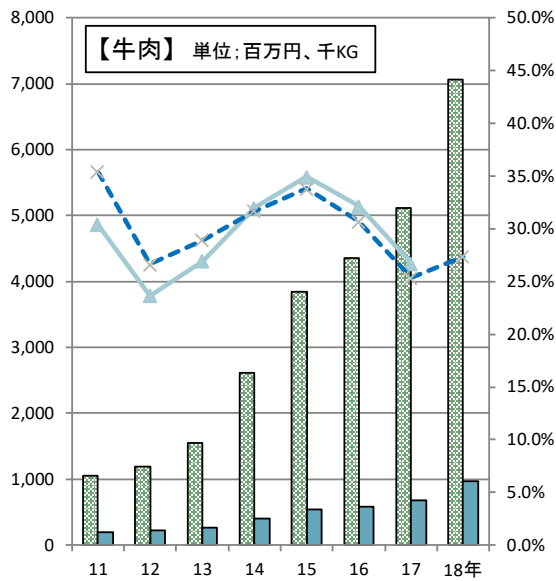
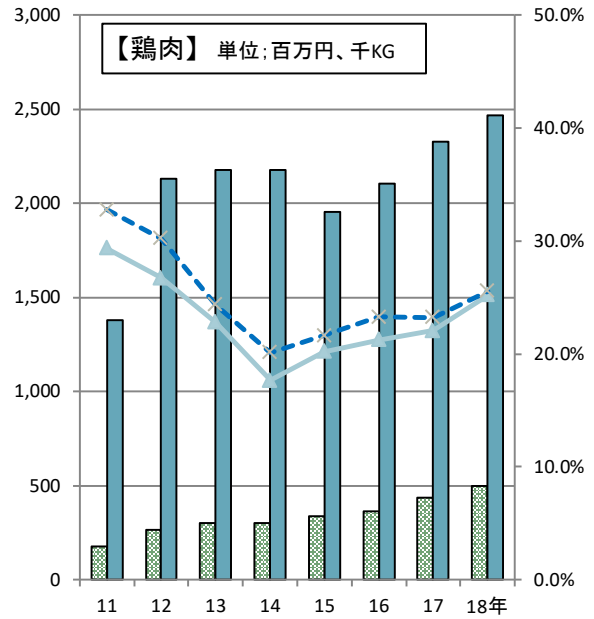
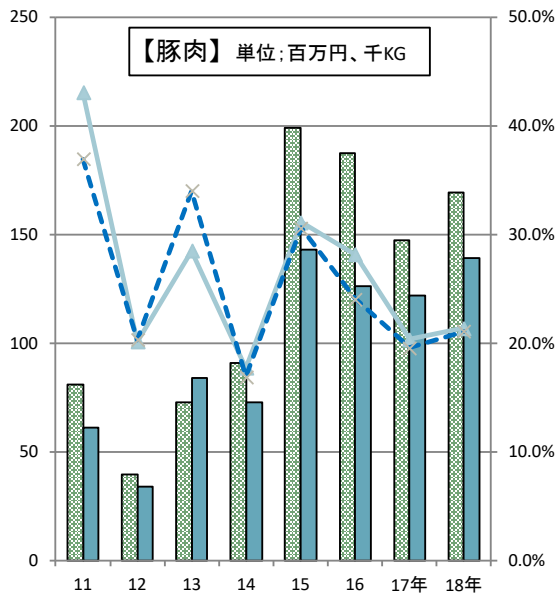
特に、かんしょ、ストロベリー、緑茶は輸出額の増加傾向が顕著。

○輸出額が大きい野菜・果物等はストロベリー、緑茶等

輸出額の全国比が高いものは、かんしょ、トマト、ストロベリー等となっている。

備考：HSコードは次のとおり。【かんしょ】071420、【ストロベリー】081010、【トマト】070200、
【みかん】080521、【緑茶】090210、090220、【なし】080830

② 肉類

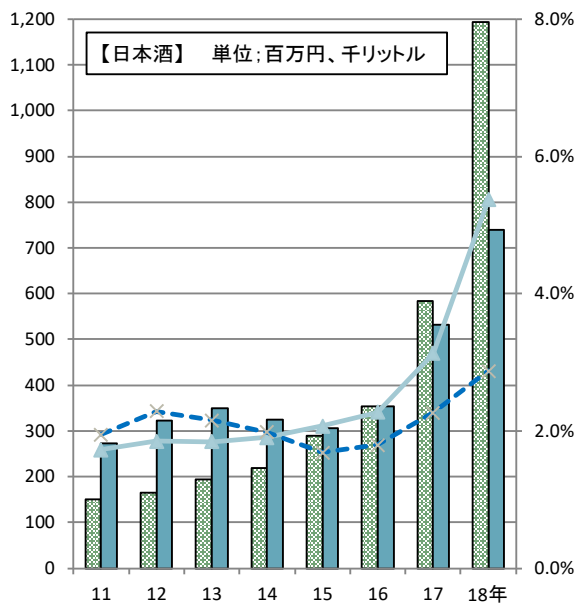
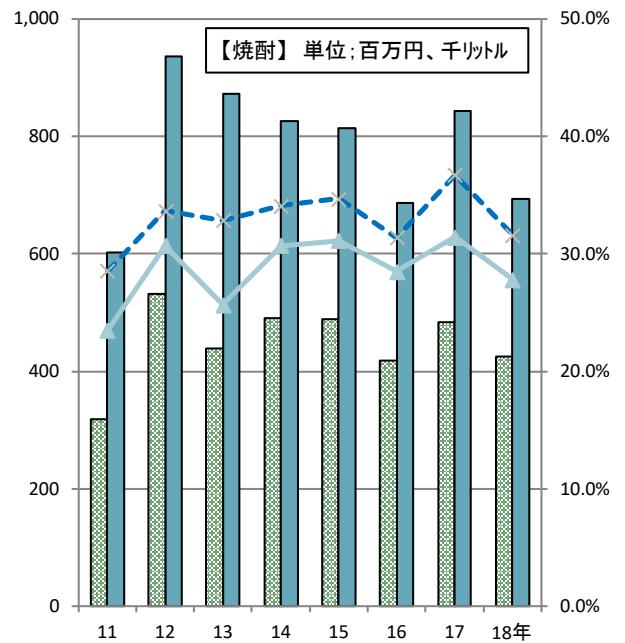
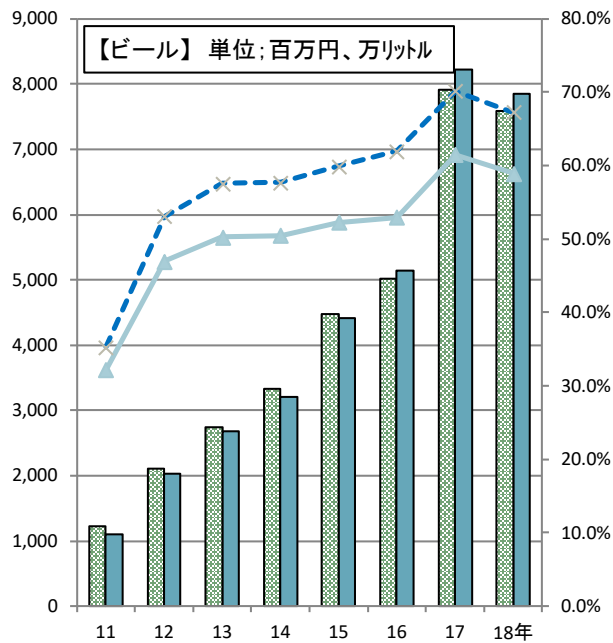


○牛肉の輸出額は年々増加しており、2011年と比べて約7倍に増加。

備考：HSコードは次のとおり。【豚肉】0203、【鶏肉】020711、020712、020713、020714、
【牛肉】0201、0202、020610、020629

③ 酒類

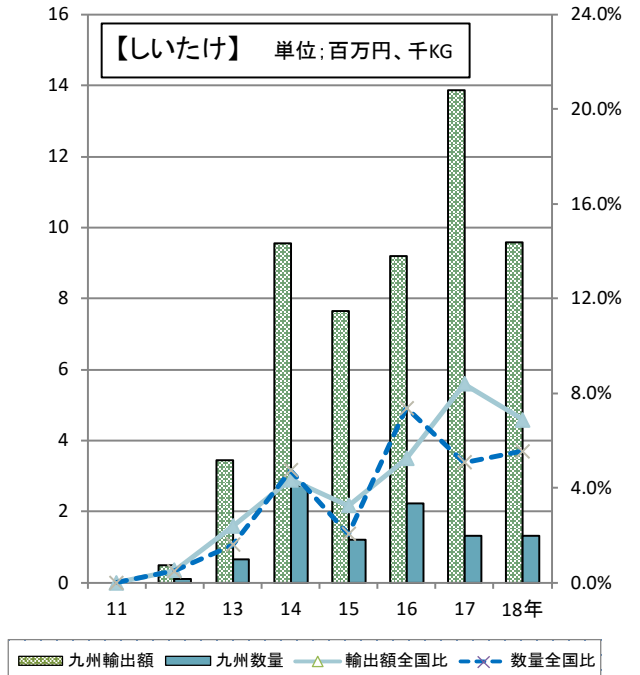
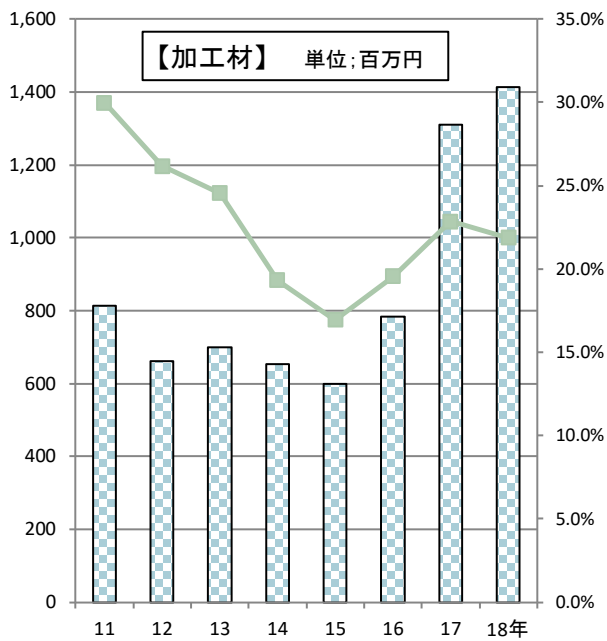
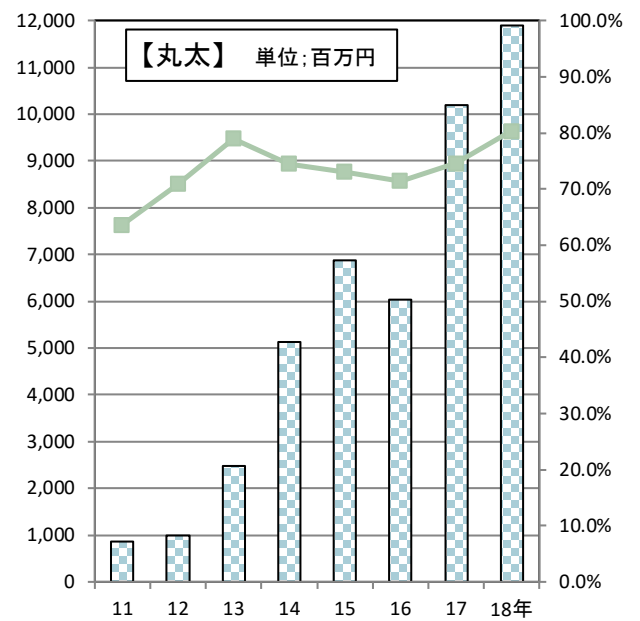
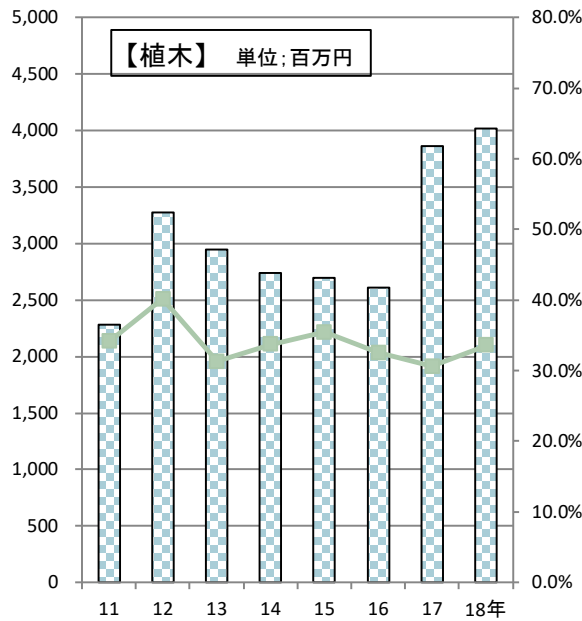
九州輸出額 九州数量 輸出額全国比 数量全国比



○ビールは2011年に比べて輸出額が約7倍となっており、輸出額の全国比は約6割。
日本酒の輸出額は年々増加、特に2018年は前年の約2倍に伸びている。

備考：HSコードは次のとおり。【ビール】2203、【焼酎】220890100、【日本酒】220600200

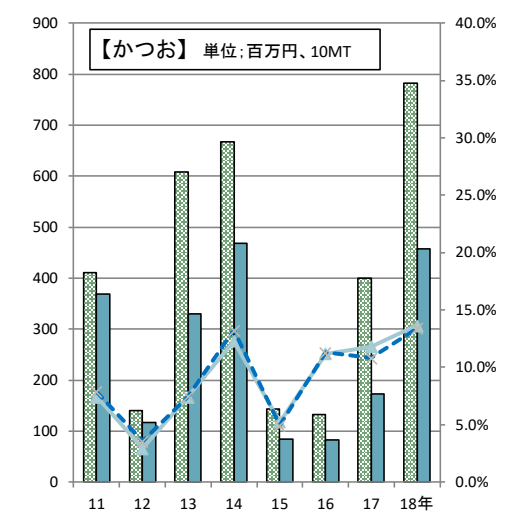
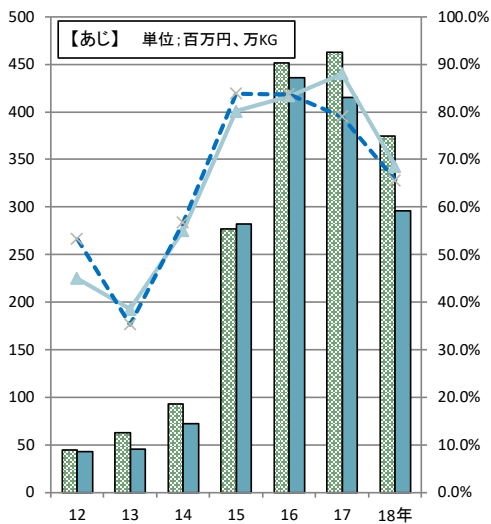
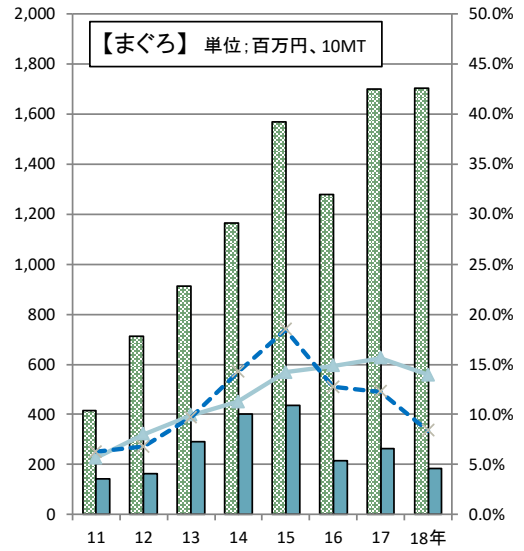
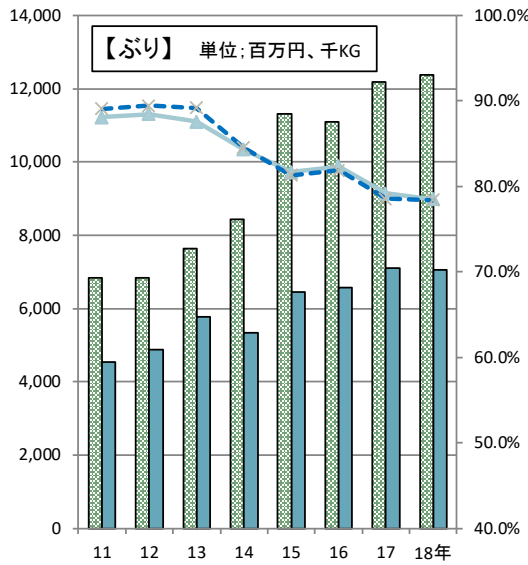
④ 林産物



○輸出額が大きい林産物は、丸太や植木。輸出額の全国比が高いのは丸太。
○丸太の輸出額について、2018年は前年より増加し、2011年と比べると、10倍以上に増加。

備考：HSコードは次のとおり。【植木】060230、060240、060290100、060290900、【丸太】4403、
【加工材】4407、4409、【しいたけ】071239100

⑤ 魚介類



○ぶりの輸出額がもっとも大きく、全国に占める割合も高い。

備考：HSコードは次のとおり

【ぶり】 030449200、030459200、030489200

【まぐろ】 概況品 00701012

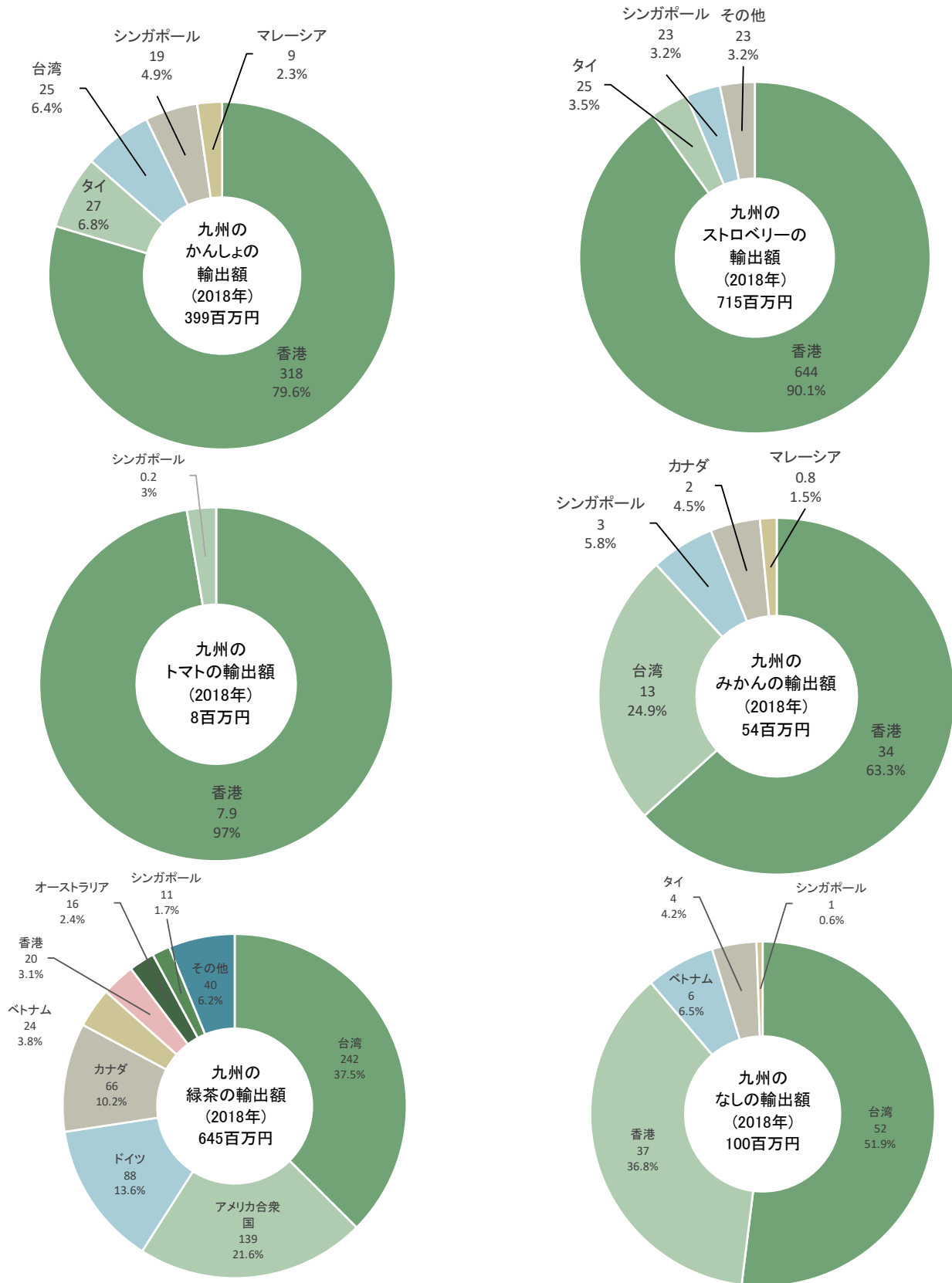
【かつお】 概況品 00701011

【あじ】 030245、030355

図表 3-6-2 九州の主要な農林水産物の輸出先

① 野菜・果物等

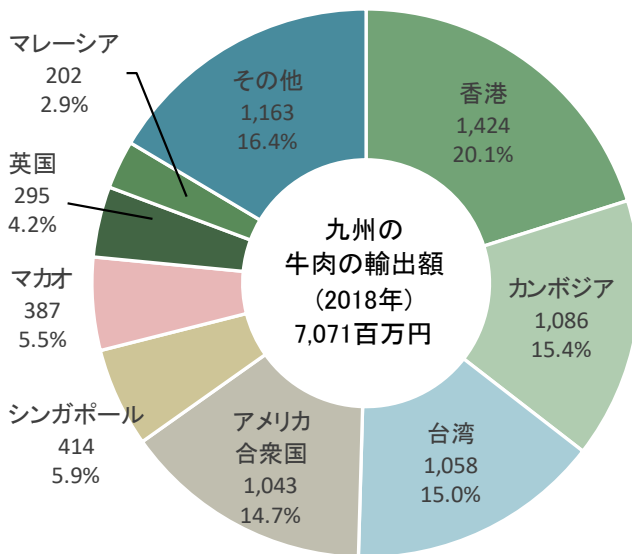
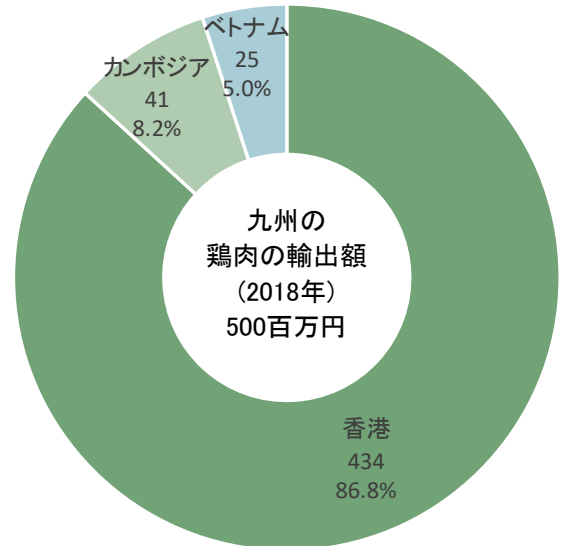
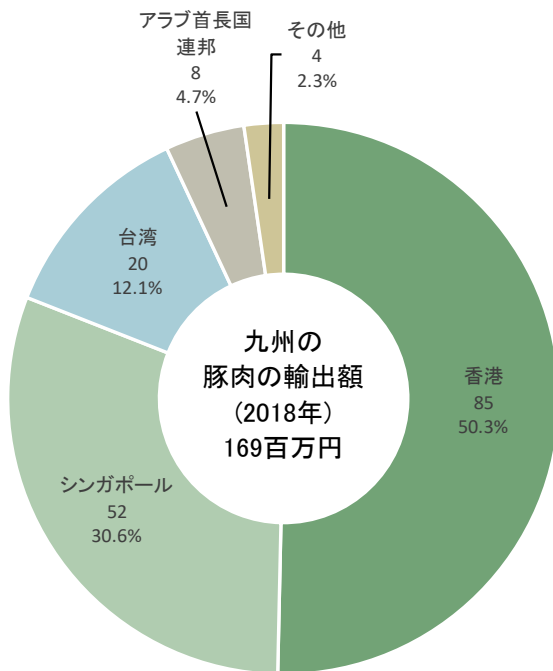
(単位：百万円、%)



○かんしょ、ストロベリー、トマト、みかん等多くの野菜・果物が香港向けに輸出されている。
 ○緑茶、なしの輸出先は台湾が最も多い。

② 肉類

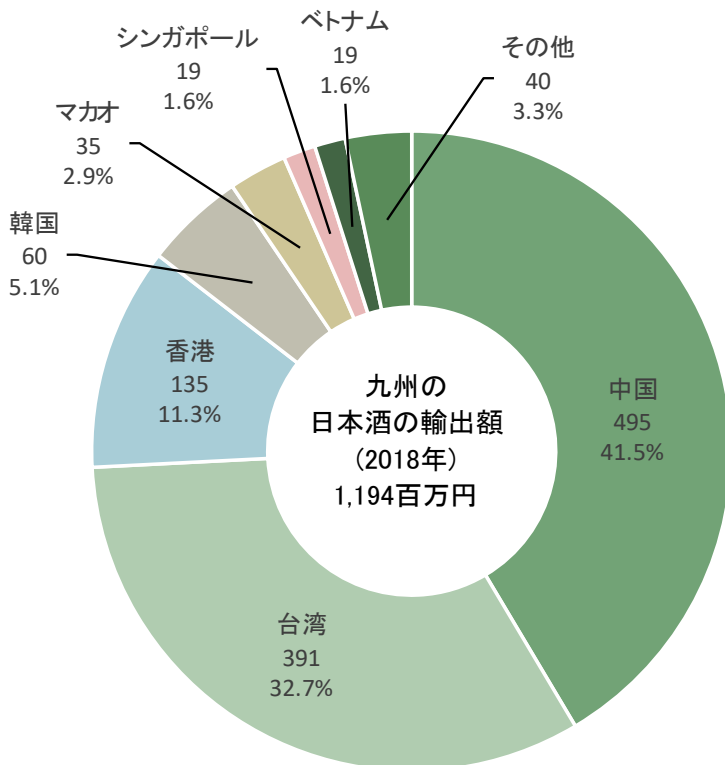
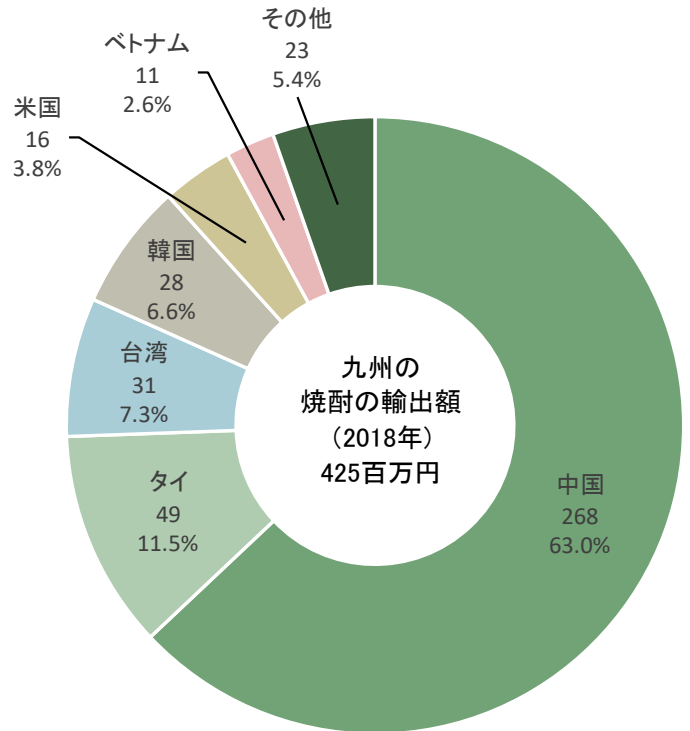
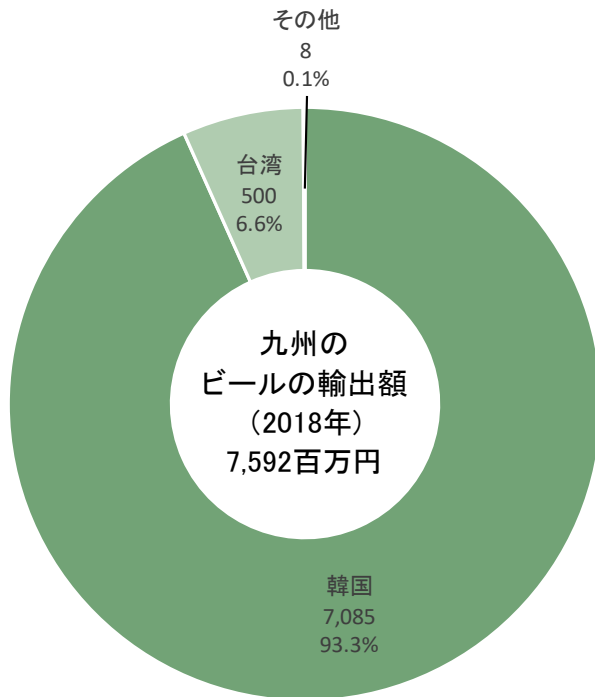
(単位：百万円、%)



○豚肉、鶏肉、牛肉ともに輸出先は香港が第1位である。
○鶏肉、牛肉については、カンボジアが第2位となっている。

③ 酒類

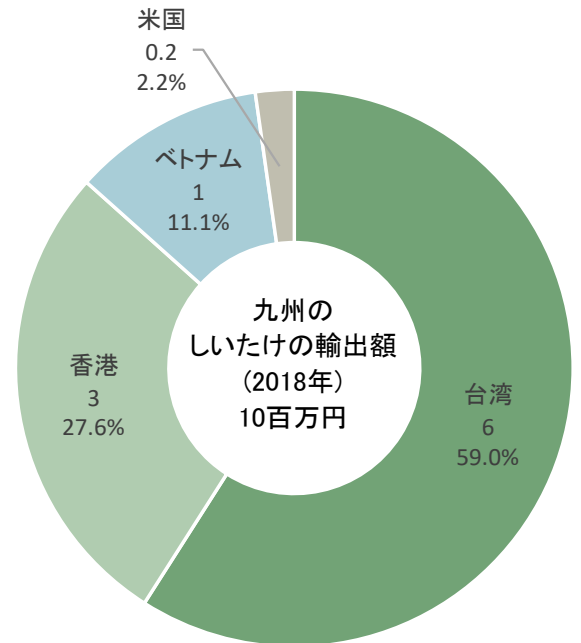
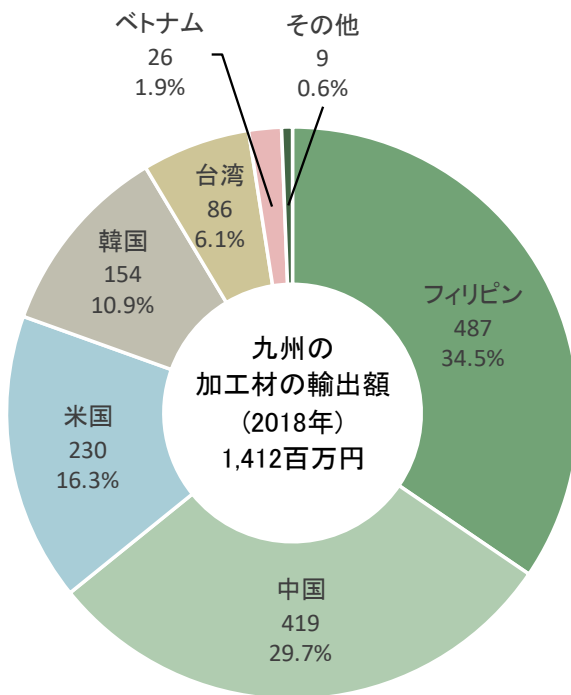
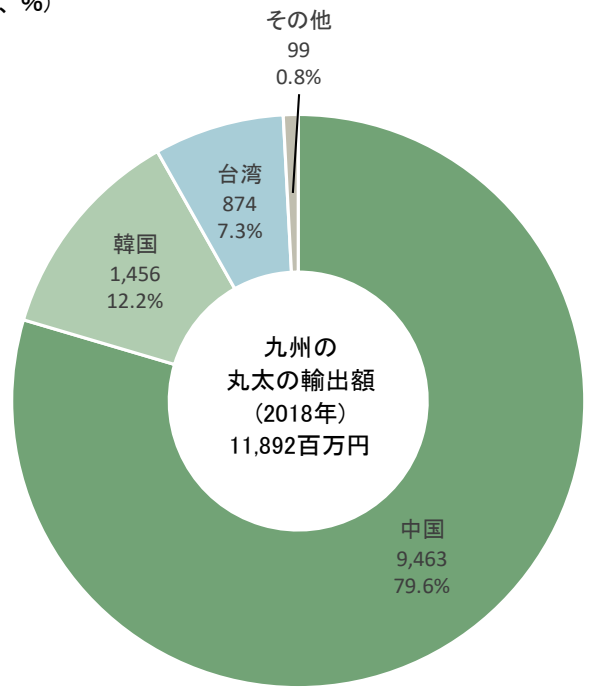
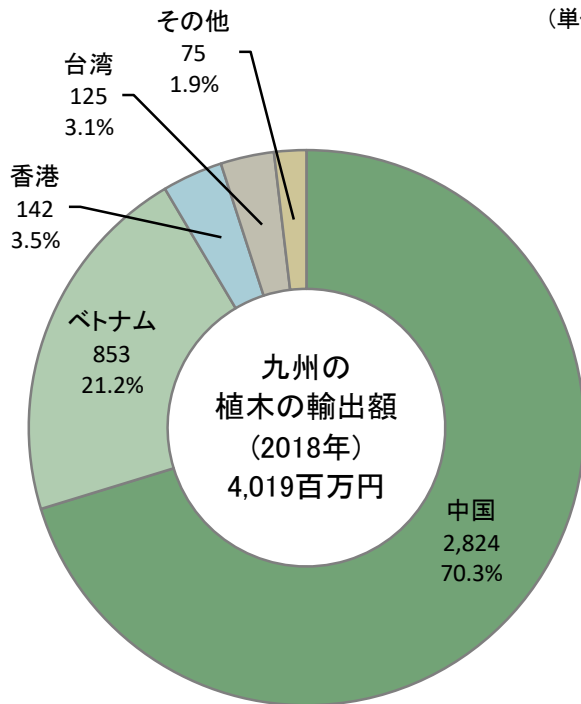
(単位：百万円、%)



○ビールは韓国、日本酒と焼酎は中国が最大の輸出先で、アジア向けの輸出が多い。

④ 林産物

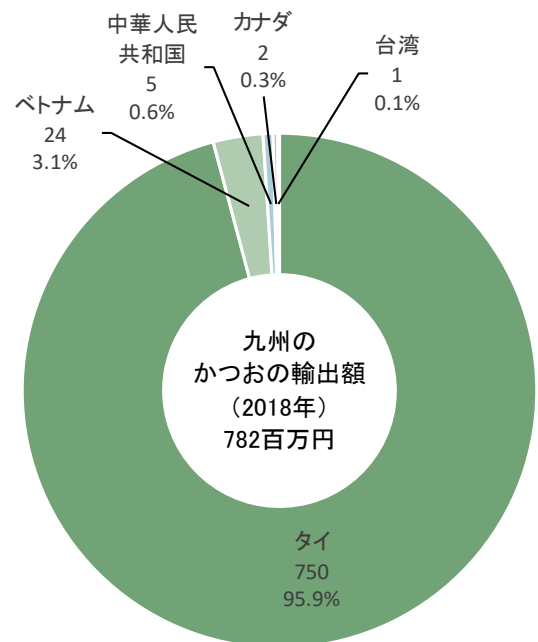
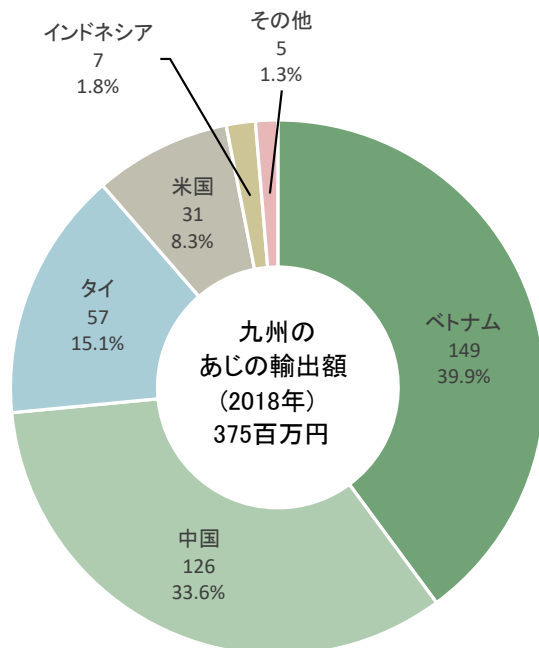
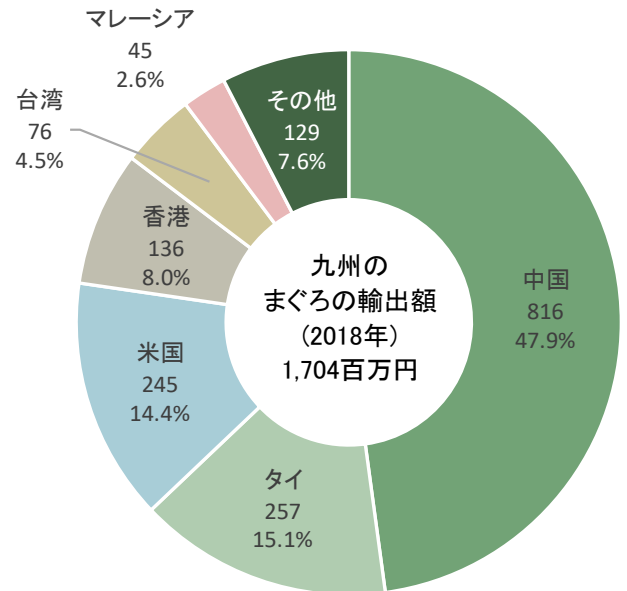
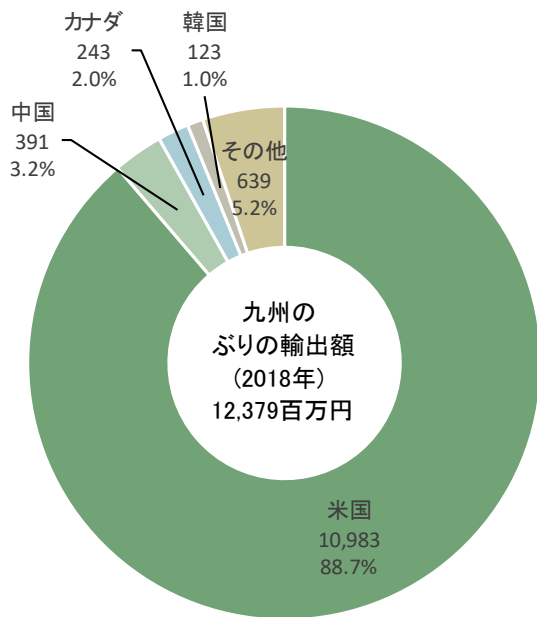
(単位：百万円、%)



○林産物の輸出はアジア向けが大半を占めている。
丸太及び植木は中国、加工材はフィリピン、しいたけは台湾が最大の輸出先となっている。

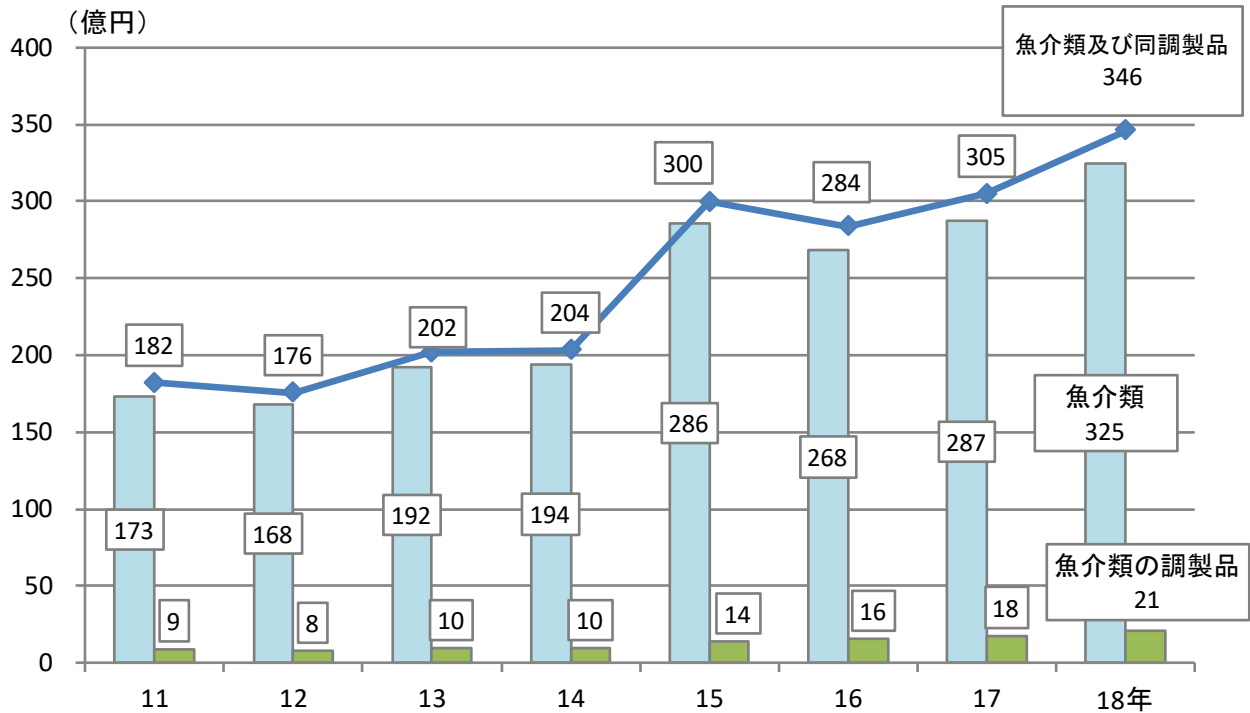
⑤ 魚介類

(単位：百万円、%)

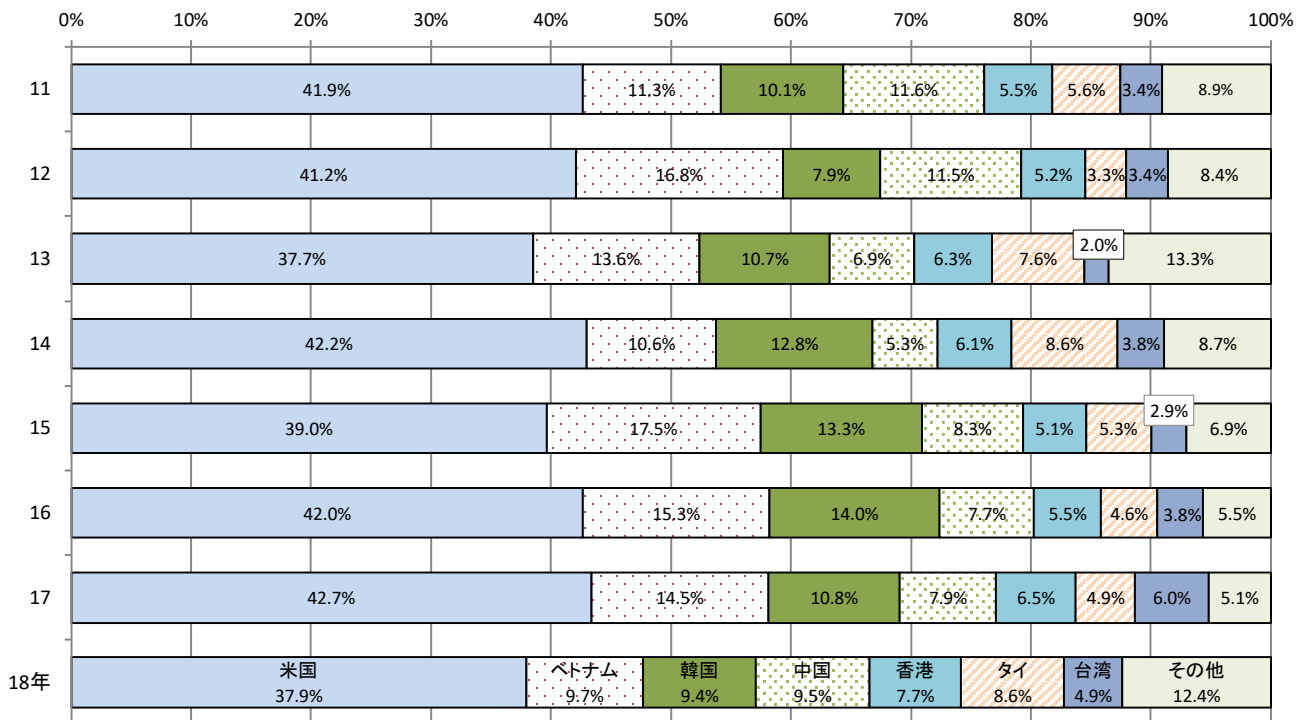


○魚介類の輸出先については、米国向けが多く、特に、ぶりについては大半を占めている。
その他、中国やASEAN 諸国などアジアが多い。

図表 3-6-3 九州の魚介類及び同調製品輸出額の推移



図表 3-6-4 九州の魚介類及び同調製品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-6-3~4 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

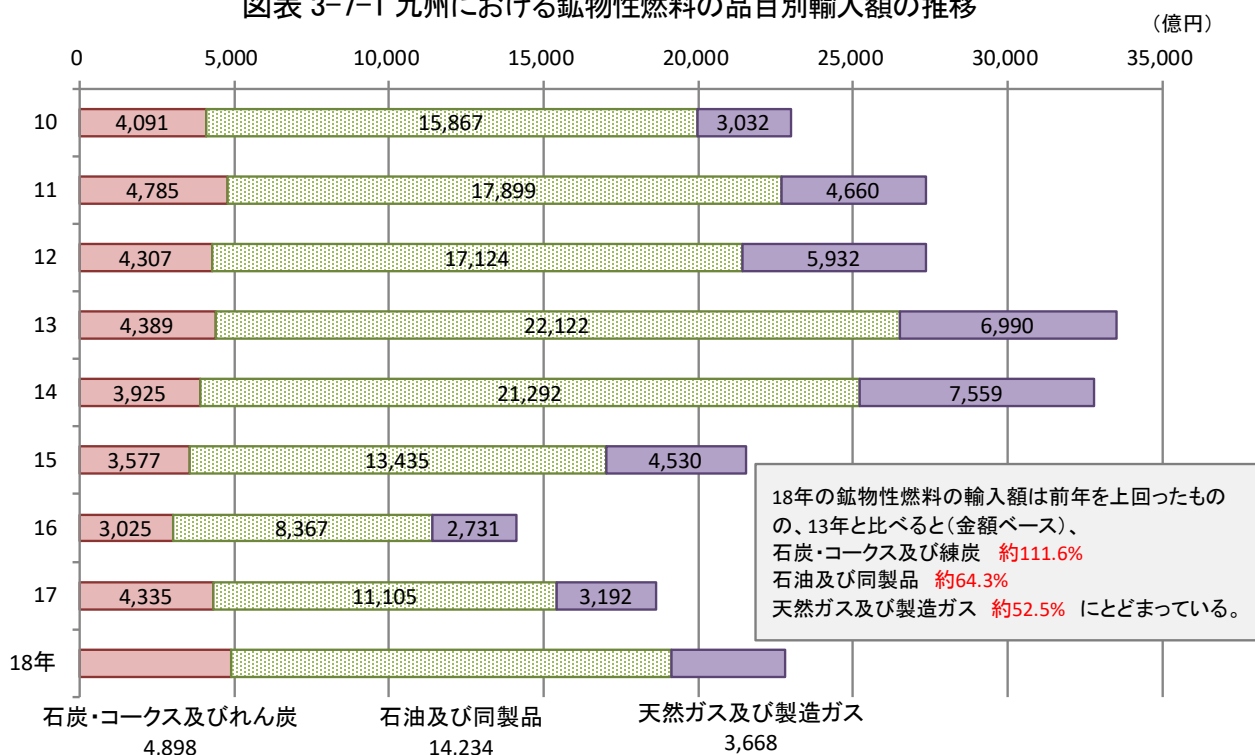
7. 鉱物性燃料

●2018年の九州の鉱物性燃料の輸入額は、2兆2,800億円（前年比22.4%増）

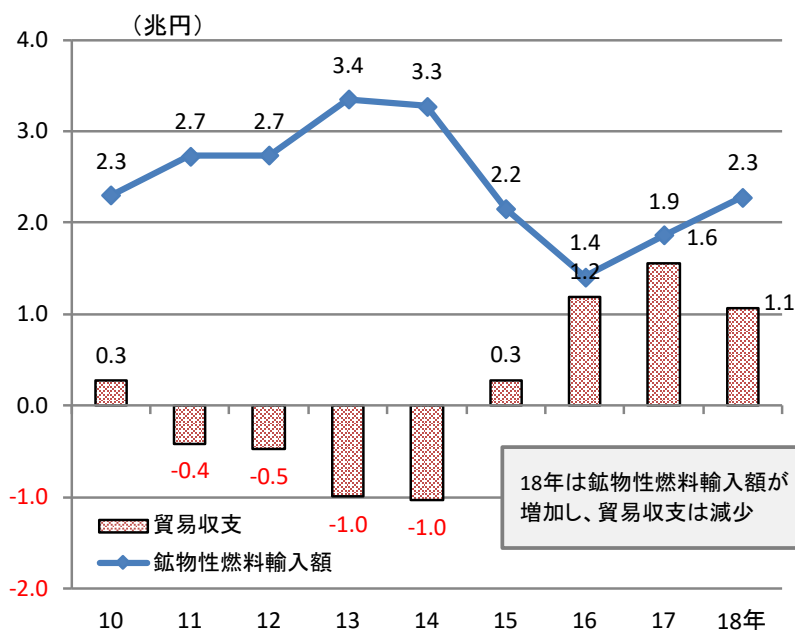
→ 4年ぶりに増加に転じた昨年に続き、2年連続の増加。品目別では、石炭・コークス及びびれん炭、石油及び同製品、天然ガス及び製造ガスのいずれも輸入額が前年より増加。

★2011年の東日本大震災以降、鉱物性燃料の需要増により、九州においても鉱物性燃料の輸入額が増加し、貿易収支は4年連続の赤字となった。その後、2015年、2016年は鉱物性燃料の輸入額が大幅に減少し、貿易収支は黒字に転じた。2017年、2018年は、資源価格の上昇に伴い、鉱物性燃料の輸入額は増加したものの、それ以上に輸出額が増加したため、貿易収支は4年連続の黒字となった。

図表 3-7-1 九州における鉱物性燃料の品目別輸入額の推移

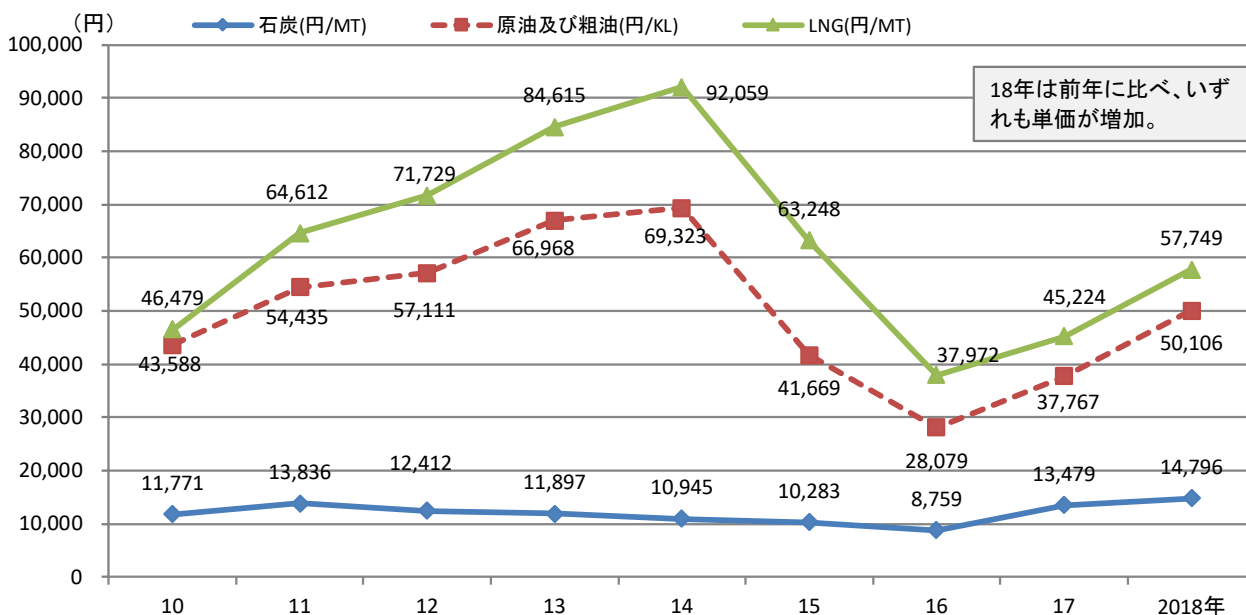


図表 3-7-2 九州における鉱物性燃料輸入額と貿易収支の推移



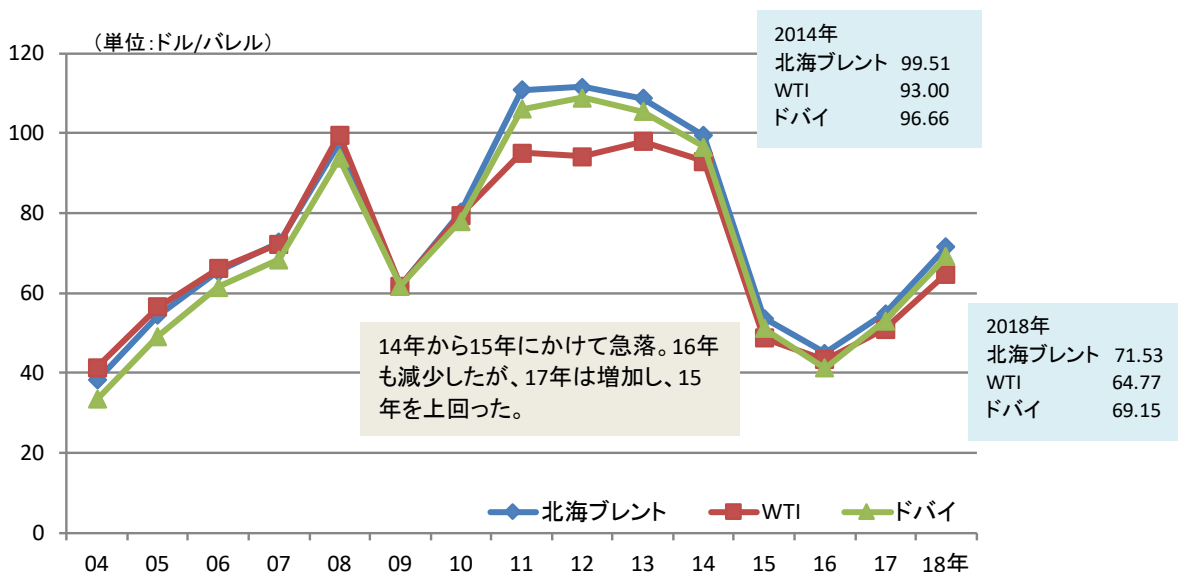
- 主な鉱物性燃料（石炭、原油及び粗油、LNG）の輸入単価をみると、石炭は2011年以降、緩やかに減少。原油及び粗油とLNGについては2014年までは上昇を続けていたが、2015年に大きく下落。2016年もさらに下落したものの、2017年、2018年はすべて上昇に転じた。
- ここで、原油相場における原油価格をみると、2015年に大幅に下落。2016年はさらに下落したものの、2017年、2018年は上昇に転じた。
- なお、2018年の主な鉱物性燃料（石炭、原油及び粗油、LNG）の輸入数量をみると、石炭は前年より増加、原油及び粗油、LNGは前年に比べて減少。

図表 3-7-3 九州の主な鉱物性燃料の輸入単価



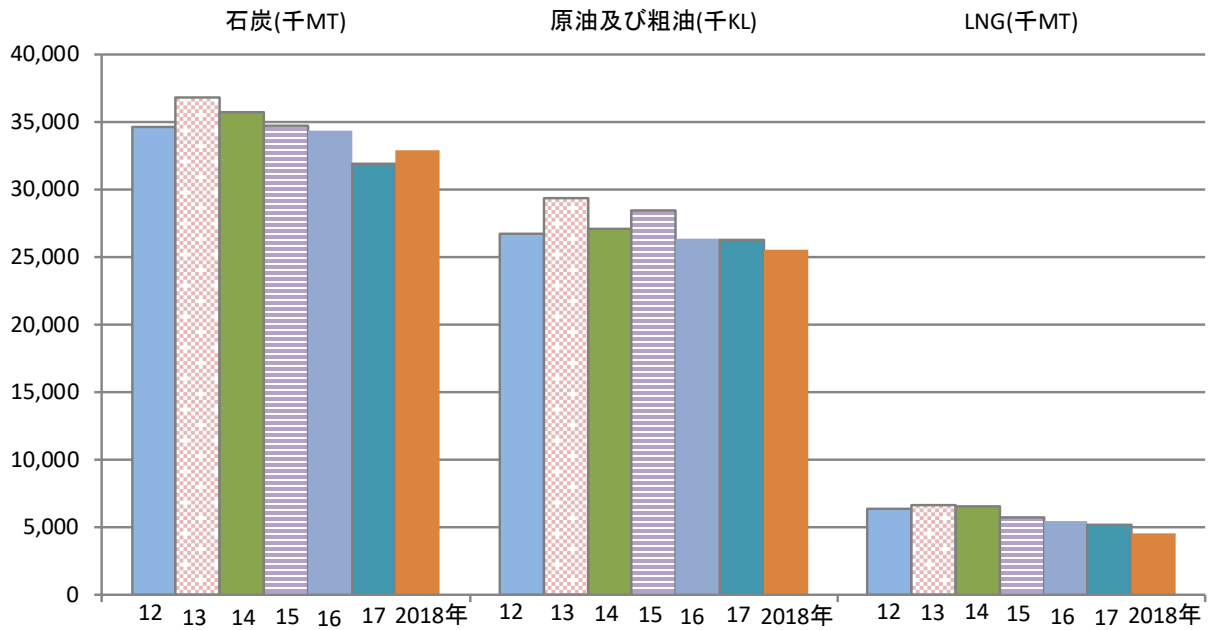
備考:それぞれの輸入単価は各年の輸入金額を輸入数量で割った値。

図表 3-7-4 原油相場における原油価格の推移

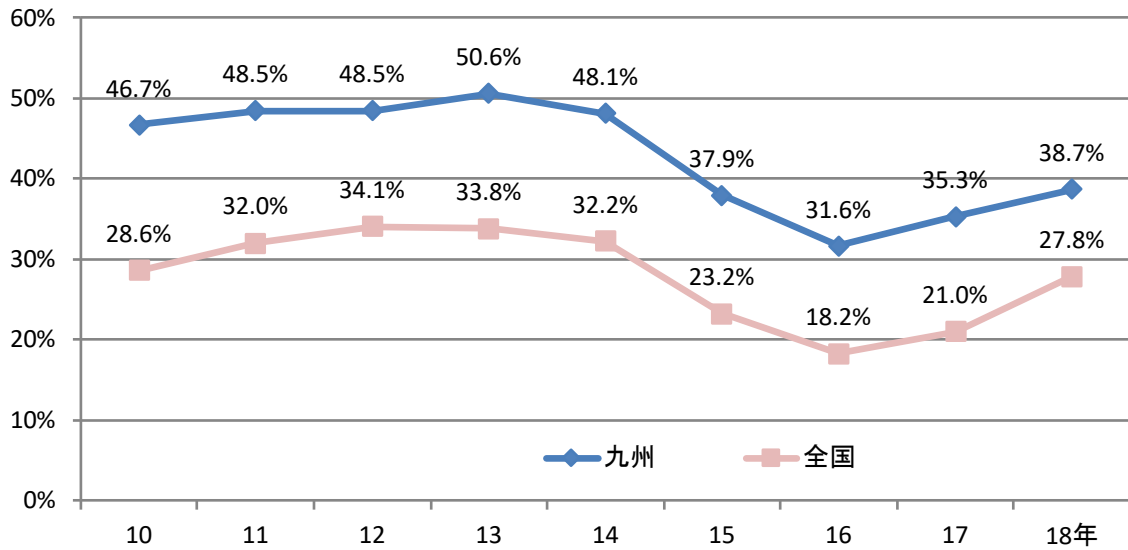


出所:内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

図表 3-7-5 九州の主な鉱物性燃料の輸入数量の推移



図表 3-7-6 九州と全国の輸入総額に占める鉱物性燃料の割合



図表 3-7-1~6 出所: 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。